

聯合艦隊司令部

聯合艦隊戰策 第一卷 戰策篇

昭和十八年極密聯合艦隊法令第八一號別冊第一(一)

1000

計	本	表紙及目次	內容	年月
四〇	三七	三		昭和十八年十二月五日

凡例

聯合艦隊軍令ノ規定ニ關シテ
各卷ノ内容左ノ如シ

第一卷 (警戒篇)

一 警戒

二 警戒ノ規定

三 警戒ノ要務

四 警戒ノ實施ニ必要ナル要務ヲ集録ス

第二卷 (警戒篇)

一 警戒

二 警戒ニ關スルコトヲ規定ス

三 警戒ノ區域等ヲ集録ス

一、水上戰艦ノ別型式ニ關シ從來ノ規定トノ
比較左ノ如シ

(イ) 晝戰種別變更セズ但シ甲及乙晝戰ニ於
テ特令ナケレバ第二法ニ依ルコトトス

(ロ) 反航戰種別變更セズ但シ特令ナケレバ
反航戰B法ニ依ルコトトス

(ハ) 薄暮戰種別變更セズ但シ特令ナケレバ
甲薄暮戰ニ依ルコトトス

(ニ) 夜戰種別ハ目標ニ依リ之ヲ甲乃至戊夜
戰ニ區別スルコト改ム

三 別變更ス

四 接敵法種別

及テ各種別ハ之ヲ設ケ

海軍艦隊戰術第一卷(戰闘篇)目次

第一編 戰 闘	四
第一章 綱 領	四
第二章 邀撃帶ヲ根據トスル戰闘ノ要領	五
第一節 邀撃帶ニ據ル戰闘ノ一般要領	五
第二節 邀撃帶ニ據リテ進攻スル戰闘	七
第三節 邀撃帶ニ據リテ敵ノ來攻ヲ阻止反撃スル戰闘	七
第三章 艦隊ノ規則	九
第一節 通 則	九
第二節 基地航空部隊ノ作戰ヲ中心トスル艦隊決戰	一〇
第三節 機動部隊ノ作戰ヲ中心トスル艦隊決戰	一三
第四章 航空戰	一六
第一節 通 則	一六
第二節 基地航空戰	一七
第三節 機動部隊ノ航空戰	一七

第一節 接敵.....一五

第二節 開敵.....二六

第三節 晝戰.....二七

第四節 薄暮戰.....三〇

第五節 夜戰.....三〇

第六節 黎明戰.....三三

第七節 叫晡戰.....三四

第八節 局地戰.....三四

第二編 警戒 (註、第二編及附録ヲ第二卷トス)

第三編 要務.....三七

第一章 通信.....三七

第一節 進則.....三七

第二節 艦船ノ通信.....三八

第三節 通信隊ノ通信.....三九

第四節 航空部隊ノ通信.....四〇

第二章 遊撃戰ノ戰鬥.....四〇

第二節 敵前輸送及敵輸送ノ防止

第三節 相對峙スル地域ヨリ來攻スル敵ヲ阻止反撃スル戰鬪 四四

第三章 先遣部隊ノ作戰 四六

第四章 航空戰 四六

第五章 夜戰 四六

第六章 對空戰鬪 四七

第七章 對潜水艦戰 四七

第八章 對魚雷艇戰 五二

第九章 船舶護衛 五三

第十章 砲戰 五七

第十一章 魚雷戰 六三

第十二章 機雷戰 六四

第十三章 運動 六五

第十四章 煙幕 六五

第十五章 電測 〇

第一節 通則 〇

第二節 電波探信及測的	·····	七一
第十六章 戰鬪概報、同連報	·····	七三
附錄 (註、第二編及附錄之第二卷トス)		

(目次終)

聯合艦隊戰策第一卷（戰鬪篇）

總則

第一 本戰策ハ聯合艦隊戰鬪ノ要領、決戰及其ノ前後ニ於テ執ラントスル企圖、方策竝ニ各級指揮官ノ準據スベキ事項ノ規定ス

第二 聯合艦隊各部隊ノ基本編制次表ノ通定ム

各部隊指揮官ハ本戰策ニ基キ各部隊ノ戰策ヲ制定シ又部下各級指揮官ヲシテ戰策又ハ戰則ヲ制定セシムベシ

聯		部		動		機		直率戰隊ヲ基幹トス		指揮官	
制編乙	制編甲	聯合機	聯合機	第一機動部隊	第二機動部隊	第三機動部隊	第四機動部隊	第三艦隊ヲ基幹トス	第三艦隊司令長官	第三艦隊司令長官	第三艦隊司令長官
動部隊	聯合機	前	本	第一機動部隊	第二機動部隊	第三機動部隊	第四機動部隊	第三艦隊ヲ基幹トス	第三艦隊司令長官	第三艦隊司令長官	第三艦隊司令長官
第二機動部隊	第一機動部隊	後	隊	第一機動部隊	第二機動部隊	第三機動部隊	第四機動部隊	第三艦隊ヲ基幹トス	第三艦隊司令長官	第三艦隊司令長官	第三艦隊司令長官
隊ニ同ジ	隊ニ同ジ	第三艦隊巡洋艦群ヲ基幹トス	第三艦隊巡洋艦群ヲ基幹トス	第三艦隊巡洋艦群ヲ基幹トス	第三艦隊巡洋艦群ヲ基幹トス	第三艦隊巡洋艦群ヲ基幹トス	第三艦隊巡洋艦群ヲ基幹トス	第三艦隊ヲ基幹トス	第三艦隊司令長官	第三艦隊司令長官	第三艦隊司令長官
リ	ルコトア	艇ヲ加フ	艇ヲ加フ	艇ヲ加フ	艇ヲ加フ	艇ヲ加フ	艇ヲ加フ	艇ヲ加フ	艇ヲ加フ	艇ヲ加フ	艇ヲ加フ
司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官
司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官	司令長官

記	一、軍隊區分ニ於テハ「聯合機動部隊」又ハ「聯合基地航空部隊」ヲ單ニ「機動部隊」又ハ「基地航空部隊」ト スルコトアリ	訓練部	第一艦隊ヲ基幹トス但シ戰地ニ在ル 部隊ヲ除ク	第一艦隊司令長官又ハ其ノ指 定スル司令官
	二、夜戰部隊ハ其ノ編制内容種々ナルヲ例トスルモ基本編制トシテハ最大ノ編制ノモノヲ意味シ第二艦隊司令長 官ハ全夜戰部隊ニ適用スベキ戰策ヲ制定スルモノトス	三、令達等ニ於テ特ニ必要ト認ムルトキハ「基本編制夜戰部隊指揮官」ノ如ク記スモノトス	附屬	第一艦隊司令長官又ハ其ノ指 定スル司令官
事	四、第一航空艦隊等ヲ聯合艦隊ニ編入セラルル場合之ヲ「機動基地航空部隊」ト稱スルコトニ豫定ス	附屬艦船等	直率	第一艦隊司令長官又ハ其ノ指 定スル司令官

第三 本戰策ハ其ノ内容ニ海戰要務令ニ準ズル事項ヲ包含ス、即チ之ガ適用ニ關シテハ海戰要務令
ノ綱領ヲ眼瞻シ典則ハ之ヲ活用スルコトニ依リ始メテ其ノ光彩ヲ發揮スルノ所以ヲ銘記スルヲ
要ス

第一編 戰 闘

第一章 綱 領

第四 聯合艦隊ノ戰闘ハ敵情ヲ明ニシ我ガ企圖ヲ祕匿シ克ク機先ヲ制シテ自主的戰勢ヲ作爲シ各部隊ノ緊密ナル協同ト特長發揮トニ依リ敵ノ特長ヲ封ジツツ全軍ノ攻撃力ヲ集中シ以テ速ニ敵ヲ擊滅スルヲ本旨トス

第五 戰闘ノ大勢ハ航空部隊ノ戰闘力發揮ニ依リテ決シ勝利ノ終局ハ全軍綜合戰闘力ノ發揮ニ依リテ決定ス即チ聯合艦隊ノ戰闘ニ於テハ各部隊協力シテ先ヅ航空部隊ノ戰闘力發揮ヲ圖リ其ノ成果ニ乘ジ全軍ノ戰闘力ヲ發揮シテ戰闘目的ヲ達成スルモノトス

航空兵力ノ衆寡我ニ不利ナル場合猶克ク戰闘終局ノ勝利ヲ收ムルノ方策ハ各部隊ノ協同ト勇戰奮闘トニ依リ敵航空兵力ノ戰力發揮ヲ十分ナル能ハザラシメ且機ニ乘ジテ敵ノ航空兵力ヲ滅殺シ堅忍不拔遂ニ克ク全軍ノ綜合威力ヲ以テ敵ヲ屈伏セシムルニアリ

第六 邀撃帶ノ設定ハ專守防禦ノ爲ニアラズ絶対不敗ノ態勢ヲ確保シツツ之ヲ根據トシテ攻防自在ノ作戦ヲ實施シ敵ヲ致シテ戰爭目的ヲ達成スルニ在リ

聯合艦隊ノ作戦實施ニ方リテハ此ノ本旨ニ則リテ常ニ攻勢積極ノ戰闘ヲ實施シ以テ敵ノ戰力ヲ擊摧セザル可ラズ

第七 新戦法ノ工夫及兵器ノ改善ハ敵ノ不意ヲ打ツノ要件ナルヲ以テ作戦間克ク敵ノ戦法及兵器

ノ推移ヲ洞察シ旺盛ナル企圖心ト卓拔ナル創意トヲ以テ常ニ敵ヲ凌駕スルノ戰法及兵器ヲ工夫シ而モ之ガ迅速ナル實用普及ニ努ムルト同時ニ連戰連勝ノ根本ハ一ニ必勝ノ信念ト卓越セル術力トノ外ニ之ヲ求ムル能ハザルノ理ヲ體シ聯合艦隊ノ隊員ハ各級指揮官以下常時戰法ノ工夫演練ト術力ノ練成トニ努メ日ニ必勝ノ信念ヲ新ニシツツ地形、兵力、敵情等ニ應ジ特長アリ且變化アル戰鬪ヲ實施シ例令敵ニ新兵器ノ優ルモノアリトモ克ク之ガ性能ヲ封殺又ハ逆用スルノ工夫ヲ凝シ物質力ニ依存スルコト大ナル敵ノ企圖ヲ反撃シテ其ノ戰意ヲ破摧スルヲ要ス

第二章 邀撃帶ヲ根據トスル戰鬪ノ要領

第一節 邀撃帶ニ據ル戰鬪ノ一般要領

第八 邀撃帶ニ依ル戰鬪ハ當該方面部隊指揮官指揮ノ下ニ之ヲ實施シ隣接方面部隊指揮官ハ互ニ連繫ヲ密ニシ情況ニ依リ相互支援ニ任ズルモノトス

特令シテ支援兵力ヲ派遣スルコトアリ

第九 邀撃帶ニ據ル戰鬪ハ陸軍部隊ト協力シテ實施スルヲ例トシ陸海軍間ノ指揮關係ハ協同作戰、統一指揮又ハ部分的統一指揮ノ何レカニ依ルモノトス

陸海軍協力ノ要領ニ關シテハ大本營ノ指令及聯合艦隊司令長官ト陸軍部隊最高指揮官トノ協定ニ依ルノ外各方面部隊指揮官ト陸軍部隊指揮官トノ協定ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

第十 邀撃帯ノ戰鬪ニ於テハ常時敵情ヲ詳ニシ敵ノ哨戒、偵察、諜報手段等ヲ防遏シ且機密保持ノ嚴ニシテ我方企圖ヲ秘匿シ又陽動、偽電、謀略等ヲ實施シテ敵ヲ混亂セシメ好機敵ヲ攻撃シ其ノ戦力ヲ撃摧シテ敵ニ進攻ノ餘地ヲ與ヘザルト同時ニ我方攻勢移轉ニ備ヘテ所要ノ基地ヲ確保シ進攻作戰ニ際シテハ堅確ナル地步ヲ占メツツ邀撃帯ヲ推進スルヲ本旨トス

第十一 各方面部隊指揮官ハ戰鬪激化ニ先チ前線基地ニ對スル輸送蓄積ヲ實施スルト共ニ豫メ常續補給方策ヲ準備シテ戰鬪激化後ト雖モ敵ノ妨害ヲ排除シツツ所要ノ補給増援ヲ實施シ且敵ノ輸送ヲ妨害シテ敵第一線ノ戦力ヲ低下セシメ以テ敵ノ進出ヲ阻止スルモノトス

常續補給ノ爲準備スベキ事項ニ關シテハ第三編第二章第一節「常續補給準備」ノ要領ニ依ルモノトス

第十二 邀撃帯附近ニ於テハ彼我ノ補給増援及其ノ阻止作戰ヲ契機トシテ屢々局地戰鬪ヲ生起スルコトアリ

局地戰鬪ハ地象、天象、敵情等ニ應ジ特種ノ戰鬪状態ヲ現出シ兵種、兵裝及戦法ノ適否ニ依リ作戰實施ニ難易ヲ生ズルコト大ナルヲ以テ各局地ニ適スル兵力及戦法ヲ以テ敵ヲ制スル必要アリ此等ノ戰鬪實施ニ關シテハ第三編第二章第二節「敵前輸送及敵輸送ノ阻止」竝ニ本編第五章第八節「局地戰」ノ要領ニ依ルモノトス

第十三 邀撃帯ノ戰鬪ニ於テハ航空戰激烈ヲ極ムルヲ例トシ而モ航空戰ノ成果ハ全般ノ戦勢ヲ左右スルヲ以テ基地ノ整備及航空戦力補充方策ヲ周密ニシ且戰鬪方式ヲ適切ニシテ消耗戰ニ陥ル

ノ域メツツ強靱ナル航空戦ヲ實施スルコト肝要ナリ
航空戦ノ實施ニ關シテハ本編第四章ノ要領ニ依ルモノトス

第二節 邀撃帯ニ據リテ進攻スル戰鬪

第十四 敵ト相對峙スル邀撃帯ニ於テ進攻ヲ企圖スルトキハ航空兵力、局地海上兵力及地上兵力ヲ集中シテ先ヅ前線ノ敵航空兵力及海上兵力ヲ撃破制壓シツツ舟艇機動又ハ地上進撃ニ依リ地上兵力ヲ前進セシメ確實ナル據點ヲ占メツツ前進シ速ニ基地又ハ基地群竝ニ連續補給路ヲ整備シテ遂次邀撃帯ヲ推進スルモノトシ戰鬪實施ニ關シテハ本章第一節ノ要領ニ依ルモノトス

第十五 離島ニ對スル進攻ハ邀撃帯ノ推進ニ依リ我が基地航空機ノ攻撃圍當該離島ニ達シタル後之ヲ實施スルヲ例トス但シ情況ニ依リ潜水艦等ヲ以テ奇襲部隊ヲ上陸セシメテ之ヲ占領シ又ハ敵ノ施設兵力等ヲ破壊スルコトアリ

第十六 大規模ナル進攻作戦ヲ企圖スルトキハ地形敵情等ニ應ジ豫メ周密ナル計畫ヲ以テ臨ミ敵大舉反撃シ來ルトキハ機ヲ失セズ決戦ニ轉ジ敵ヲ制シテ我が自主的作戦ヲ行フモノトシ其ノ要領ニ關シテハ本編第三章ノ規定ニ依ルノ外要スレバ別ニ之ヲ令示ス

第三節 邀撃帯ニ據リテ敵ノ來攻ヲ阻止反撃スル戰鬪

第十七 敵ノ來攻ハ努メテ早期ニ之ヲ反撃撃摧スルヲ本旨トシ戰鬪實施ニ關シテハ本節ニ規定ス

ルモノノ外本章第一節ノ要領ニ依ルモノトス

第十八 陸軍ト協同シテ敵ノ來攻ヲ阻止反擊セントスルトキハ豫メ協定シテ兵術思想ノ統一ヲ圖ル機一臨ミテ遺憾トキ戰鬪ヲ實施シ得ル如ク準備ヲ周密ナラシムルモノトス

第十九 敵ノ來攻ヲ反擊スル最良ノ方策ハ初動ニ於テ其ノ企圖ヲ打ツニアリ即チ相對峙スル敵ノ動向ニ留意シ進攻兵力ノ集積セントスルモノアルヲ認ムルトキハ機ヲ夫セズ航空機、潜水艦、奇襲上陸部隊等ヲ以テ之ヲ奇襲擊破シ又ハ反覆航空攻撃ヲ加ヘ敵ヲシテ其ノ進攻企圖ヲ放棄スルノ已ムナキニ至ラシムルモノトス

第二十 敵ノ來攻ヲ豫期スルトキハ豫メ邀擊部署ヲ制定シ敵ノ進攻企圖ヲ利用シテ我が自主的作戰ノ場中 陷ラシメ以テ敵ヲ擊滅スルモノトス

第二十一 相對峙スル地域ヨリ來攻スル敵ニ對シテハ敵戰法ノ特長ニ留意シテ之ヲ反擊シ敵ヲ水上乃至水際ニ擊破シテ其ノ進攻ヲ挫折セシムルモノトシ戰鬪實施ノ細項ニ關シテハ第三編第二章第三節「相對峙スル地域ヨリ來攻スル敵ヲ阻止反擊スル戰鬪」ニ準據スルモノトス

第二十二 敵上陸シ來ラバ其ノ初動ニ於テ我が全力ヲ舉ゲテ之ヲ反擊掃蕩シ敵上陸ノ地歩ヲ占メタル後ト雖モ機ヲ失セズ反擊作戰ヲ實施シ不撓不屈敵ヲ擊滅セザル可ラズ

陸上防備ヲ陸軍ノ主擔任トスル地域ニ在リテハ特ニ事前ノ協定ヲ周密ニシ敵來攻ニ際シテ陸海軍ノ方針ニ齟齬ナカラシムルコト肝要ナリ

第二十三 敵ノ來攻規模大ナルトキハ基地航空兵力又ハ海上兵力ヲ當該方面部隊ニ増援シ又敵ノ

來攻具ノ主反攻ナリ、認ムルトキハ聯合艦隊ハ基地航空兵力及海上決戦兵力ノ全力ヲ集中シ戦機ヲ作爲シテ決戦ニ轉ジ全力ヲ擧ゲテ敵ノ主反攻戦力ヲ殲滅ス
決戦ノ要領ニ關シテハ本編第三章ノ規定ニ依ルモノトス

第三章 艦隊決戦

第一節 通 則

第二十四 我ガ邀撃帶正面ニ對シ敵大舉來攻スルトキ聯合艦隊ハ所要ノ兵力ヲ集中シテ敵ヲ邀撃
殲滅ス

此ノ場合我ガ有力ナル基地群及基地航空部隊ヲ配備セル正面ニ敵來ルトキ又ハ機動部隊ノ海上機動ヲ適當トセザル情況ニ於テハ基地航空部隊ノ作戰ヲ中心トシ然ラザルトキハ機動部隊ノ作戰ヲ中心トシテ決戦スルヲ例トス

第二十五 邀撃作戰ヲ以テ決戦ヲ企圖スル正面ニ對シテハ豫メ各正面毎ニ邀撃配備要領ヲ定メ之ヲ下令シ置クヲ例トス

邀撃配備要領トシテ豫令スル事項左ノ如シ

一、作戰方針

二、作戰參加兵力及作戰要領

三、作戰區分及各部隊作戰行動ノ基準

四、多正面作戰ノ場合ニ於ケル主作戰正面ノ決定及兵力配備ノ標準

五、其ノ他必要ナル事項

第二節 基地航空部隊ノ作戰ヲ中心トスル艦隊決戰

第二十六 基地航空部隊ノ作戰ヲ中心トスル艦隊決戰ニ際シ集中スベキ兵力ハ作戰全般ノ情況、當面ノ敵情、地形等ニ應ジ其ノ都度之ヲ特令スルヲ例トス但シ其ノ概要ハ邀撃配備要領ニ於テ之ヲ豫令シ置クコトアリ

第二十七 聯合艦隊司令長官ハ主作戰正面ノ陸上又ハ旗艦ニ在リテ作戰全般ヲ指揮シ各部隊作戰實施ノ基準特ニ航空部隊、水上部隊及潜水部隊ノ作戰統制ニ關スル要綱ヲ令示ス

第二十八 基地航空部隊ノ作戰ヲ中心トスル艦隊決戰ノ要領左ノ如シ

一、敵來攻ノ氣配ヲ認ムルトキハ速ニ所要ノ兵力ヲ集中シテ邀撃配備ヲ完了ス

二、航空機、潜水艦、監視艇又ハ挺身索敵隊等ヲ以テ早期敵來攻部隊ヲ發見シ且速ニ敵兵力ノ

全貌ヲ明ニシ主ナル敵部隊ニ對シ觸接ヲ確保ス

三、先ヅ航空兵力ヲ以テ敵船團又ハ敵母艦部隊ヲ撃破シ次デ全力ヲ擧ゲテ敵船團及艦隊ヲ撃滅ス

敵船團又ハ敵母艦部隊ノ何レヲ先ニ撃破スベキヤハ作戰諸般ノ情況ニ依リ之ヲ定ムルモノト

ス

四、敵基地航空兵力ニ對シテハ之ヲ敵基地ニ先制撃破シ又ハ之ヲ來襲途上ニ邀撃シ若ハ我が基地附近ニ於テ撃滅ス

五、機動部隊航空兵力ハ陸上基地ヨリ作戰シ又ハ情況ニ依リ海上機動ヲ以テ敵來攻部隊ノ一側ヨリ之ヲ撃破スル如ク作戰ス

六、敵上陸部隊ニ對シテハ之ヲ洋上乃至泊地ニ撃滅スルヲ本旨トシ猶上陸シ來ルモノアラバ陸軍ト協同シテ上陸ノ初動ニ於テ之ヲ撃滅スルニ努ムルト共ニ上陸部隊ニ拘束セラレテ進出シ來ル敵艦隊ヲ捕捉殲滅シ以テ敵上陸部隊ノ後續補給ヲ絶チ遂ニ敵ヲシテ敗退ノレムナキニ至ラシム

七、主隊、戰艦部隊、遊撃部隊（第二艦隊ガ機動部隊トシテ行動スルトキハ遊撃部隊ヲ缺ク以下微之）等ノ水上部隊ハ情況ニ依リ敵兵力就中航空兵力ノ攻撃力ヲ分散セシムル如ク牽制陽動ヲ行ヒ且我が航空作戰ノ成果ニ乗ジ又ハ天象、地象ノ利用ニ依リ敵艦隊又ハ輸送船團ニ近迫シ之ヲ撃滅掃蕩ス

八、水上部隊ハ特ニ必要トスル場合ノ外敵ノ有力ナル航空攻撃圏内ニ行動セザルヲ例トス 但シ敵ノ艦隊全力ヲ擧ゲテ來攻シ我が致命的地域ニ上陸セントスルガ如キ情勢ニ於テハ敢然トシテ水上艦艇ノ體當リの戦法ヲ以テ敵ノ企圖ヲ阻止スルモノトス

九、潜水部隊ハ航路ノ要點ニ於テ敵來攻部隊ヲ邀撃シ又ハ泊地附近ニ於テ敵輸送船團又ハ艦隊

ヲ攻撃ス 但シ我ガ水上部隊ノ豫想作戰海域ヲ避ケシムル如ク豫メ其ノ行動海域ヲ指令スル
コトアリ

十、航空戦ノ要綱ニ關シテハ以上ノ外本編第四章ノ規定ニ依ルモノトス

第二十九 基地航空部隊ノ作戰ヲ中心トスル艦隊決戦ニ於ケル各部隊ノ統一指揮又ハ協同ニ關スル基準左ノ如シ

一、同一方面ニ作戰スル各部隊ノ作戰實施ハ統一指揮ニ依ルヲ例トシ情況特ニ之ヲ可トスル場合上級指揮官ノ統一指揮下ニ於テ關係部隊ノ協同作戰ヲ實施セシムルモノトス

二、決戦正面ヲ擔任スル方面部隊ノ基地航空兵力、他ノ方面部隊ヨリ増援セル基地航空兵力及機動基地航空部隊兵力ハ之ヲ統一指揮トスルヲ例トス 但シ情況ニ依リ方面部隊ノ基地航空兵力ト機動基地航空部隊兵力トハ協同作戰トスルコトアリ

三、基地航空部隊兵力ト機動部隊航空兵力トハ協同作戰トスルヲ例トス 但シ情況ニ依リ統一指揮トシ又ハ各部隊兵力ノ一部ヲ他ノ指揮官ノ作戰指揮下ニ入ラシムルコトアリ

四、決戦正面ヲ擔任スル方面部隊ノ潜水艦兵力ト他ノ方面部隊又ハ先遣部隊ヨリ同正面ニ對シ増援セル潜水艦兵力トハ統一指揮トスルヲ例トス

五、方面部隊指揮官指揮下ノ潜水艦兵力ト先遣部隊指揮官指揮下ノ潜水艦兵力トハ作戰地境ヲ區分シテ協同作戰セシムルヲ例トス

六、協同作戰ヲ行フ各部隊指揮官ハ上級指揮官ノ命令ニ依ルノ外必要ニ應ジ互ニ部下兵力ヲ他

ノ指揮官ノ作戰指揮下ニ入ラシムルコトヲ得

七、航空兵力ト潜水艦兵力トノ協同ニ關シテハ上級指揮官ノ命令ニ依ルノ外關係部隊相互ニ緊密ナル連繫ヲ保持シツツ作戰スルモノトス

八、機動部隊洋上ニ行動スル場合基地航空部隊及潜水部隊ハ上級指揮官ノ命令又ハ各部隊ノ協同ニ依リ機動部隊ノ行動ニ必要ナル索敵又ハ前後路及側面ノ掩護等ニ任ズルモノトス之ガ爲機動部隊指揮官ハ爲シ得ル限り自隊ノ行動豫定ヲ關係部隊指揮官ニ通報スルモノトス

九、水上部隊ノ航空部隊ニ對スル策應及航空部隊ノ水上部隊ニ對スル協力ニ關シテハ上級指揮官ノ命令ニ依ルノ外關係部隊ノ要望ニ應ジ之ヲ實施スルモノトス

十、聯合艦隊司令長官陸上ニ在リテ作戰ヲ指揮スル場合直率戰隊ノ艦艇ハ之ヲ戰艦部隊又ハ遊撃部隊指揮官ノ指揮下ニ行動セシムルヲ例トス

第三節 機動部隊ノ作戰ヲ中心トスル艦隊決戰

第三十 敵艦隊大舉シテ我方島嶼攻略ヲ企圖スル如キ場合聯合艦隊ハ敵ノ攻略部隊ヲ拘束シツツ海上決戰兵力及基地航空兵力ノ大部ヲ集中シ機動部隊ノ作戰ヲ中心トシテ敵艦隊及攻略部隊ヲ擊滅ス

第三十一 聯合艦隊司令長官ハ主隊ヲ率キ戰場ニ進出シテ作戰全般ヲ指揮シ各部隊作戰行動ノ基

準ヲ令ス

情況ニ依リ聯合艦隊司令長官ハ旗艦ヲ率キテ機宜ノ行動ヲ執リ又ハ陸上ニ在リテ作戰ヲ指揮スルコトアリ此等ノ場合直率戰隊（艦艇）ノ大部又ハ全部ハ之ヲ戰艦部隊又ハ遊撃部隊指揮官ノ指揮下ニ行動セシムルヲ例トス

第三十二 機動部隊ノ作戰ヲ中心トスル艦隊決戰全般ノ要領左ノ如シ

一、航空機、潜水艦、監視艇又ハ挺身索敵隊等ヲ以テ早期敵來攻部隊ヲ發見シ且速ニ其ノ全貌ヲ明ニシ主ナル敵部隊ニ對シ觸接ヲ確保ス

二、航空兵力ノ大部ヲ以テ先ヅ敵航空母艦ヲ先制擊破シ次デ敵船團又ハ敵艦隊ヲ擊破ス 但シ
情況ニ依リ先ヅ敵船團ヲ攻撃擊破スルコトアリ

三、航空戰ノ成果ニ乘ジ全軍舉ツテ敵艦隊及船團ヲ擊滅ス

四、敵上陸部隊ヲシテ孤立無援自滅ノ已ムナキニ至ラシム

第三十三 機動部隊ノ作戰ヲ中心トスル艦隊決戰ニ於ケル各部隊作戰實施ノ要領左ノ如シ

一、機動部隊

(イ) 自衛警戒ヲ嚴ニシ所在ヲ祕匿シツツ敵機動部隊ヲ其ノ一角ヨリ先制奇襲スル如ク行動シ先ヅ敵航空母艦ノ機能ヲ封ジタル後敵船團又ハ敵艦隊ヲ擊破ス情況特ニ必要トシ又ハ之ヲ有利トスル場合先ヅ敵船團ヲ攻撃スルコトアリ

(ロ) 敵機動部隊ニ對スル攻撃ハ機動部隊指揮官ノ所信ニ依リ最モ有利ナル時機ヲ選定シテ之ヲ開始ス

(八) 友軍部隊ノ協同ニ便ナラシムル爲要スレバ行動豫定ヲ報告通報ス

(九) 航空戦ノ要綱ニ關シテハ以上ノ外本編第四章ノ規定ニ依ルモノトス

三、基地航空部隊

(イ) 敵出現豫想海面ヲ廣範圍ニ亘リ哨戒索敵シ且敵ニ觸接シテ味方機動部隊ノ先制奇襲ニ資スルト共ニ其ノ前後路又ハ側面ヲ掩護ス

(ロ) 好機敵ヲ攻撃シ先ヅ敵航空母艦ノ機能ヲ封ズ

(ハ) 敵船團ヲ攻撃撃滅ス

(ニ) 機動部隊ト作戰正面ヲ區分擔任スル場合ニ於テモ一部兵力ヲ以テ機動部隊ニ策應スルヲ例トス

(ホ) 航空戦ノ要綱ニ關シテハ以上ノ外本編第四章ノ規定ニ依ルモノトス

三、先遣部隊及方面部隊ノ潜水部隊

(イ) 機動部隊ノ作戰ニ策應シテ偵察、監視、觸接、哨戒等ニ任ジ好機敵ヲ攻撃ス

(ロ) 特令ニ依リ機動部隊ノ前路掃航、側面又ハ後面掩護、天候偵察、不時着機救護等ニ任ズ

(ハ) 水上部隊又ハ潜水部隊間互ノ混淆防止ノ爲作戰地域ヲ區分スルコトアリ

四、主 隊

戦機ニ投ジテ敵撃滅ノ陣頭ニ立ツノ外戦艦部隊行動ノ要領ニ同ジ

五、戦艦部隊、遊撃部隊

機動部隊ニ策應機宜行動シテ牽制陽動ヲ行フ

牽制行動ノ基準左ノ如シ

(イ) 牽制行動ハ敵哨戒圏ノ縁邊乃至敵艦上機ノ攻撃圏以外ノ海域ニ於テ之ヲ行フヲ例トス

(ロ) 敵哨戒機ノ視界内ニ於テハ基準航路又ハ陣形ノ正面ヲ適切ナル方向ニ選定シ以テ我が機

動部隊進出方向ノ判断ヲ困難ナラシムルニ努ム

(ハ) 敵哨戒機ノ視界外ニ於テハ機宜行動シ必要ニ應ジ欺瞞通信ヲ行フ

六、水上部隊ハ航空部隊ノ攻撃ニ策應全力ヲ擧ゲテ敵方ニ進出シ總攻撃ヲ以テ敵ヲ撃破シ總追

撃ヲ以テ敵ヲ殲滅ス

水上部隊戦闘ノ要領ニ關シテハ本編第五章ノ規定ニ依ルモノトス

第三十四 敵機動部隊ノ我が要地ニ對スル空襲企圖ヲ阻止セントスルガ如キ場合彼我機動部隊ノ

遭遇戦ニ依リ生起スルコトアルベキ決戦ノ要領ニ關シテハ出來得ル限り本節ノ規定ニ準據スル

モノトス

第四章 航空戦

第一節 通則

第三十五 航空戦ノ要旨ハ敵情ヲ詳ニシ神速ナル機動集中ヲ以テ敵ノ機先ヲ制シ勇猛果敢ナル攻

撃ヲ反覆シテ敵ヲ擊滅シ地上及水上ノ戦闘ト協同シテ速ニ作戰目的ヲ達成スルニアリ

第三十六 敵情及全般ノ情勢ヲ明ニスルハ當面ノ作戰ノミナラズ聯合艦隊全作戰實施ノ基礎要件ナルヲ以テ航空機ニ依ル搜索、偵察、觸接又ハ哨戒等ノ實施ニ關シテハ他ノ情報勤務ト密接ナル關聯ヲ保持シツツ聯合艦隊作戰命令及當面ノ作戰計畫ニ基キ周到ナル計畫ト適切ナル實施トヲ以テ所要範圍ノ情況ヲ鮮明ニシ敵情ヲ保續シ且之ガ迅速確實ナル報告通報ニ努ムルモノトス

第三十七 主體ヲ水上艦艇トスル輸送作戰、對潛作戰等ト雖モ之ガ成否ハ關係航空作戰ノ成果ニ負フ所至大ナリ即チ航空機ノ關與スル戦闘ニ關シテハ單ナル協力乃至掩護ノ域ニ止マルコトナク航空戰ヲ以テ諸般ノ戦闘ノ基幹トナシ且航空機關與ノ範圍ヲ更ニ擴大シ益其ノ實施ヲ周到細密ニシ以テ作戰全般ノ遂行ニ資スルモノトス

第二節 基地航空戰

第三十八 邀撃帶ニ據ル航空戰ノ一般要領左ノ如シ

- 一、強靱ナル基地群及特ニ第一線基地ヲ整備シテ適時所要ノ兵力ヲ展開ス
- 二、主動的戰勢ヲ作爲シ適時航空擊滅戰ヲ實施シテ敵ヲ制壓ス
- 三、來襲スル敵機ニ對シテハ戰鬥機隊及對空兵力ヲ以テ之ヲ邀撃擊滅ス
- 四、夜間攻撃ヲ重視スルト共ニ夜間戰鬥機及夜間對空兵力ヲ整備シテ敵機ノ夜間來襲ヲ反撃阻
止ス

五、邀撃帯ニ據ル進攻作戰及敵來攻阻止作戰ニ於テハ哨戒偵察ヲ重視シテ敵情ヲ明ニシ戰鬪ニ際シテハ其ノ主兵ヲ以テ任ジ且水上部隊又ハ地上部隊ト協同シテ敵ヲ攻撃撃滅ス

六、機動部隊海上ニ行動作戰スルトキ基地航空部隊ハ相協力シテ機動部隊ノ威力發揮ヲ圖リ同時ニ自隊ノ攻撃力ヲ發揮ス

七、輸送船護衛、局地水上戰鬪掩護等邀撃帯ノ戦力充實又ハ態勢強化ヲ目的トスル作戰ヲ重視シ且其ノ機會ニ於テ來襲スル敵機ヲ積極的ニ撃滅ス

八、必要ニ際シ要地攻撃、陸戰協力等ノ作戰ヲ實施ス

九、航空戦力ノ維持充實ヲ圖ル

第三十九 基地群及基地ノ整備ニ關シテハ邀撃帯設定要領ニ準據スルモノトシ激烈ナル航空對峙戰ヲ豫想スル正面ニアリテハ特ニ第一線基地ノ防空壕、掩體、軍需品格納所等ヲ堅固ニシ敵襲ニ對シテ兵力ヲ安全ニ防護スルト共ニ滑走路應急修理方策ヲ整備シテ基地ノ能力維持ニ遺憾ナカラシムルモノトス

第四十 展開ハ作戰方針ニ基キ隱密迅速ニ實施スルヲ本旨トス之ガ爲

一、各航空部隊指揮官ハ豫想ノ作戰ニ對シ所要兵力ヲ迅速ニ機動集中シ得ル如ク豫メ部署ヲ制定シ置クモノトス

二、航空撃滅戰開始前ノ展開ハ特ニ我が企圖ヲ秘匿シ敵情竝ニ天象地象ヲ詳ニシ且情勢ニ依リテハ展開中又ハ展開直後ニ於ケル敵襲ニ對シ邀撃又ハ防護ノ方策ヲ考慮シツツ好機迅速ニ之

ヲ實施スルモノトス

第四十一 航空擊滅戰ハ敵情ヲ明ニシ巧ニ戰機ヲ把握シ我ガ兵力ヲ集中シテ奇襲ヲ企圖シ適時適切ナル戰法ヲ以テ敵ヲ擊滅スルヲ本旨トシ天象地象ノ積極的利用、新兵器新戰法ノ工夫考案竝ニ敵慣用戰法ノ逆用等ニ努ムルモノトス

航空擊滅戰ニ於テハ敵搭乗員ノ擊滅ヲ重視ス

第四十二 來襲スル敵機ニ對スル邀擊戰ノ要領及留意事項左ノ如シ

一、見張、電波哨戒、對空哨戒等ノ準備及實施ヲ適切ニシテ敵機ヲ適時捕捉シ戰團機隊ヲ以テ邀擊擊滅ス

邀擊戰ヲ機敏ニ實施スル爲部署ヲ制定シ又情況ニ依リ哨戒機ニ依ル敵基地ノ監視、敵機ノ追跡又ハ潜水艦ニ依ル敵基地ノ監視等ヲ行フモノトス

二、對空兵力ヲ整備シ積極的ニ其ノ威力發揮ヲ圖リテ敵機ヲ擊墜ス此ノ種方策ハ航空兵力ノ寡我ニ有利ナラザル場合敵機擊滅ノ一方策ナルヲ以テ有力ナル對空兵力ヲ整備シ敵機ノ習性ヲ利用スル攻撃法ヲ工夫シ又兵力補充ヲ準備シテ作戰實施ニ遺憾ナカラシムルモノトス

三、輸送船團又ハ偽船團等ニ依リ敵機ヲ誘出シテ擊滅ス

四、擊墜敵機ノ搭乗員ヲ捕獲スルニ努ム

第四十三 進攻作戰ノ成否ハ一ニ航空作戰ノ成果ニ依ルヲ以テ作戰實施ニ際シテハ敵情偵察ヲ特ニ周密ニシ攻撃準備ヲ整フルト同時ニ嚴ニ企圖ヲ祕匿シツツ適時展開シテ先ヅ敵航空兵力及海

上兵力ヲ擊破制壓シ攻略軍ノ前進ニ依リテ要地ヲ占領シ急速基地ヲ設營シテ對空兵力及航空兵力ヲ進出セシムルモノトス

第四十四 敵ノ來攻ヲ阻止反擊スル作戰ニ於テハ常時敵情ヲ明ニシ敵ノ前進基地ニ集積セントスル戦力ヲ適時攻撃擊破シ敵來攻ニ際シテハ速ニ之ヲ捕捉シテ其ノ船團ヲ洋上ニ擊滅シ敵泊地ニ來リ又ハ上陸スルトキハ極力船舶及揚陸點ヲ攻撃シ又後續船團ノ擊滅及敵航空基地ノ造成妨害ニ努メ陸上及水上ノ戰鬥ト協同シテ敵ヲ擊退スルモノトス

敵ガ相對峙スル地域ヨリ上陸用特種舟艇ヲ以テ來攻スルトキハ我が阻止作戰用舟艇ト緊密ニ協同シ綿密ニ索敵シテ執拗ニ敵ヲ攻撃スルモノトシ敵ノ夜間行動ニ備ヘテ我亦夜間攻撃ヲ準備シ所要ノ水上機隊等ヲ配備スルモノトス

敵來攻時ニ於ケル敵ノ航空攻勢ニ對シテハ第四十一、第四十二ノ要領ニ依リ之ヲ反擊擊滅ス敵大船團及機動部隊等ヲ以テ來攻スルトキノ作戰ハ本編第三章ノ要領ニ依リ之ヲ實施スルモノトス

第四十五 要地攻撃ハ敵戦力ノ集積地又ハ敵前線ニ至ル輸送ノ要點ヲ攻撃擊破スルヲ主トシ情況ニ依リ其ノ他ノ軍事要點又ハ政治、經濟、工業、資源等ノ中樞ヲ攻撃シテ敵ニ物心兩面ノ打擊ヲ與フルニ努ムルモノトス

第四十六 航空對峙戰ニ於テハ我が航空戦力ノ維持充實對策ヲ適切ナラシムル必要アリ之ガ爲考慮スベキ事項左ノ如シ

一、人員器材ノ補充ヲ迅速ニシ且戦闘以外ノ原因ニ依ル損耗ヲ極力防止ス

二、第一線作戰部隊又ハ搭乗員ノ交代制度ヲ確立シ過激ナル勤務ニ従事スル期間ヲ過大ナラシメサル如クス

三、積極的作戰實施ノ合間ニ於テ第一線基地ニハ所要ノ偵察機隊及戦闘機隊ヲ配備シ大部ノ兵力ハ之ヲ後方基地ニ移動シ訓練、整備、休養、氣分轉換ヲ圖リ極力戦力ヲ充實向上ス

四、整備員交代ニ關シ適當ニ考慮ス

第三節 機動部隊ノ航空戰

第四十七 機動部隊ハ通常之ヲ本隊及前衛ニ區分ス

本隊ハ母艦群及其ノ警戒兵力ヨリ成リ之ヲ更ニ數群ニ分ツコトアリ

前衛ハ戰艦、巡洋艦、驅逐艦ヲ主トシ之ニ航空母艦ヲ加フルコトアリ

機動部隊ニ潜水艦又ハ飛行艇ヲ編入スル場合ハ機動部隊指揮官之ヲ直率スルヲ例トス

第四十八 機動部隊ノ接敵ハ基地航空部隊及潜水部隊ノ協同ニ依リ前方及側方廣範圍ノ索敵ヲ行

フト共ニ自隊前衛及情況ニ依リテハ本隊ノ索敵ヲ以テ自衛警戒ヲ嚴ニシ我が行動ヲ秘匿シツツ

敵方ニ進出スルニアリ

接敵ニ關シ特記スベキ事項左ノ如シ

一、接敵ニ當リテハ敵ノ正面ニ正向スルヲ避ケ且縱深配備又ハ廣正面配備ヲ以テ敵ノ集中攻撃

、同艦に直ニカ攻撃、其ノ一翼、軍中又ハ之ヲ包圍スル如クス

前部ハ敵ノ直ニ出索敵ノ行ヲ

監視ニ依リテ、其ノ行ヲ察知シテ分派シ又ハ敵哨戒機基地ノ破壊等ニ任ゼシムルコト
アリ

、敵情ヲ得ルモ、右方ニ於テ、隊ヲ發進シ又其ノ他ノ方面ヲ索敵シテ敵ノ全貌ヲ明ニス

、右方ニ於テ、隊ヲ發進シ又其ノ他ノ方面ヲ索敵シテ敵ノ全貌ヲ明ニス

、隊ヲ發進シ又其ノ他ノ方面ヲ索敵シテ敵ノ全貌ヲ明ニス

、隊ヲ發進シ又其ノ他ノ方面ヲ索敵シテ敵ノ全貌ヲ明ニス

第四十、機動部隊ノ展開又領左ノ如シ

、會敵ノ機動部隊ニ至ラバ機動部隊ハ攻撃配備ヲ完了シ敵情ヲ偵知セバ速ニ航空攻撃ヲ開
如

、本隊ハ機動部隊ノ開合ヲ取り又情況ニ依リ横方向ニ機動シテ敵攻撃ノ矢先ヲ躲スト共ニ母
艦ハ適當ナル分散配備ヲトル

、前部ハ本隊ニ策應シテ進退シ航空攻撃ヲ開始セバ機動部隊指揮官ノ命ニ依リ敵方ニ進撃シ

テ水上艦隊ニ移ル

第五十、機動部隊航空戦ノ一般要領左ノ如シ

、敵機動部隊ト戰フニ際シテハ先ヅ所在敵航空母艦全部ノ機能ヲ對ズルヲ重視シ次デ之ニ

敵機は我軍の機群を襲撃し、我軍の機群は敵機を撃滅スルヲ本旨トス

黎明航空戦ハ夜間急連接敵シ黎明前索敵機ヲ發進シテ黎明時敵ヲ先制撃破シ晝間航空戦ヲ以テ之ノ撃滅スルヲ本旨トス

黎明航空戦ニ依リ敵情ヲ得ザルトキハ一旦反轉シツツ本隊前衛合同シテ次ノ戦闘ニ備フルヲ例トシ但シ情況ニ依リ第二次索敵ヲ以テ晝間航空戦ヲ開始スルコトアリ

續テ黎明航空戦ノ行フ場合ハ航空機又ハ艦艇ヲ以テ終夜敵航空母艦ニ觸接シ黎明時

敵機母艦ノ有母艦ノ有母艦ニ同時ニ他ノ敵ヲモ逸セザル如ク索敵攻撃ス

薄暮航空戦ハ晝間航空戦ノ續キ又ハ敵發見ノ時刻其ノ他ノ情況ニ依リ薄暮攻撃ヲ有利ト

スル場合之ヲ以テ晝間航空戦トシ晝間航空機ヲ以テ敵ニ觸接シ且攻撃隊ヲ以テ確實ニ敵

捕獲スルヲ本旨トス

機宜行動ニ依リ航空戦又ハ翌朝ノ黎明戦ニ備フ

八、夜間航空戦ニ日間又ハ薄暮航空戦ニ引續キ之ヲ實施シ又ハ情況ニ依リ夜間攻撃ヲ以テ之ヲ
開始スルモノトシテ天象又ハ照明兵器ノ利用ニ依リ敵航空母艦又ハ他ノ艦艇ヲ攻撃シ或ハ水上
艦艇ニ夜間ニ策應シ又ハ黎明戦ニ備ヘテ敵ニ對スル觸接ヲ確保スルヲ本旨トス

夜間ハ奇襲奏功ノ算大ニシテ防空火器ノ威力發揮及大兵力ノ集中攻撃困難ナル特性アルヲ以
テ戰況之ニ適スルトキハ積極的ニ夜間攻撃ヲ企圖スルモノトス

前節ハ航空攻撃ニ策應シテ夜戦ヲ實施スルヲ例トシ要スレバ航空攻撃ト水上夜戦トノ目標又
ハ攻撃時刻ノ區分シ且顯著ナル味方識別ヲ行フモノトス

七、本隊ハ努ムテ敵ノ觸接機ヲ擊墜シ敵攻撃隊ノ矢先ヲ躲シツツ攻撃隊ノ反覆攻撃ヲ實施スル
使ナル如ク行動ス

八、敵ノ航空母艦全部ヲ擊破セバ機ヲ失セズ全軍追撃ニ轉ジ各航空戦隊又ハ航空母艦毎ニ使用
シ得ル攻撃隊ヲ反覆發進シ敵殲滅ニ努ム

此ノ際激烈ナル戦鬪ニ屆セザル反覆攻撃ハ戦鬪勝利ノ要訣ナリ

九、機動部隊ノ接敵展開及空中攻撃隊ノ攻撃法ニ關シテハ合戦ノ都度戦法ヲ刷新シ敵ノ意表ヲ
衝イテ常ニ自主的作戰ヲ實施スルニ努ムルモノトス

十、攻略ノ企圖スル敵ノ艦隊ニ對スル航空戦ハ以上ノ外本編第三章第三節ノ要領ニ依ルモノト
ス

十一、陸上基地ヲ使用スル場合ノ航空戦ハ本章第二節ノ要領ニ準ジ之ヲ實施スルモノトス

第五十一 各部隊ノ以テ敵ノ航空基地攻撃ハ戰略的奇襲ヲ豫期シ得ル等特別ノ場合ニ限ル
例 自衛隊基地航空部隊及潜水部隊等協同ノ下ニ機動部隊行動ノ祕匿及索敵ヲ周密ニシツ
之ヲ實施シ敵艦隊出現セハ直ニ全力之ガ攻撃ニ轉ズルモノトス

第五章 水上戦闘

第一節 接 敵

第五十二 水上部隊接敵期ノ戦闘ハ主トシテ敵航空機及潜水艦ニ對シ自衛警戒ヲ嚴ニシ極力我ガ
各個艦隊間同時ニ味方ノ連繫ヲ確保シツツ機宜敵方ニ進出スルニアリ

第五十三 水上部隊ハ機動部隊ニ策應シテ行動シ機動部隊航空攻撃ヲ開始セバ同隊前衛ニ策應シ
ノ進撃ス

牽制陽動ニ任スル部隊ハ情況ニ依リ之ヲ繼續シ又ハ敵觸接機等ヨリ離脱ヲ圖リツツ進撃スルモ
ノトス

第五十四 水上部隊ノ接敵序列ハ各部隊毎ニ之ヲ定ムルモノトシ各部隊ノ關係位置ハ必要ニ應ジ
戰場ノ最高指揮官之ヲ下令スルモノトス

第五十五 主隊又ハ主隊及戰艦部隊ノ接敵序列ハ警戒航行序列ニ同ジ

第二節 展 開

第五十六 機動部隊ハ敵情ヲ得ハ速ニ攻撃ヲ開始シ機宜前衛（聯合機動部隊ノ前衛ニシテ第二艦隊及母艦部隊以外ノ第三艦隊ヲ基幹トス以下倣之）ヲ敵方ニ進出セシム

機動部隊ニ策應スル水上部隊ハ機動部隊前衛ノ行動又ハ戰況ニ應ジテ機宜行動ス

第五十七 各部隊敵ニ近接セバ機宜展開ス

展開時ノ序列ハ概ネ當時ノ味方部隊ノ關係位置ニ從フモノトス

主隊及戰艦部隊竝ニ機動部隊前衛等同時ニ敵ニ近接スル場合ニ在リテハ機動部隊前衛ハ主隊、戰艦部隊ニ對シ先頭隊又ハ殿隊トナル如ク行動スルヲ例トス但シ戰況ニ應ジ戰場所存ノ最高指揮官ハ各部隊ヲ指揮統制スルモノトス

第五十八 主隊及主隊ト共ニ行動スル部隊ノ展開要領左ノ如シ

主隊在ラサル場合ノ展開要領亦之ニ準ズ

一、適時展開ヲ豫令シ砲戰開始ノ約十五分前（彼我距離約五〇軒附近ニ於テ）之ヲ完了スル如ク展開ヲ下令ス

二、展開ハ戰闘序列、基準隊（特令ナケレバ第一戰隊）及展開方向ヲ令シテ之ヲ行フヲ例トシ
要スレバ主隊ノ進撃方向ヲ指示ス

三、展開前戰艦部隊ハ主隊ニ倣ヒ展開方向ニ一線トナリ横陣ヲ以テ接敵スルヲ例トス

四、展開方向ノ變換セントスル場合ハ基準隊（特令ナケレバ第一戰隊）及新展開方向ヲ示シテ之ヲ行フ。但シ要スルハ基準隊ノ進撃方向ヲ指示ス。

五、展開順序ハ當時ノ關係位置ノ順序ニ依ル縱陣列トス。

六、展開順序ニ於ケル各隊間隔ハ四杆ヲ標準トス但シ情況ニ依リ各隊指揮官ハ機宜之ヲ變更スルコトヲ得。

第三節 書 戰

第五十九 連ニ敵ヲ捕捉シ空中攻撃隊ノ攻撃ニ策應シ其ノ戰果ヲ擴充シテ敵ヲ殲滅スルヲ本旨トス。

第六十 敵潰走スルトハ之ニ近キ部隊ハ敵ヲ急追シテ其ノ避退ヲ阻止シ全軍急追シテ敵ヲ擊滅シ一部兵力ヲ以テ戰場殘敵ヲ掃蕩ス。

第六十一 敵集結シテ避退ハル如キ場合ハ空中攻撃ヲ反覆シテ敵一部ノ速力ヲ奪ヒ敵ガ其ノ航空威力圈内ニ遁入スルニ先チ之ヲ捕捉擊滅ス。

第六十二 水上部隊ハ航空部隊ノ敵情通報ニ基キテ進出シ敵ヲ發見セバ正確ナル敵情ヲ航空部隊ニ速報シテ空中攻撃ノ遂行ニ資シ空海協同シテ敵擊滅ニ努ムルモノトス。

第六十三 水上部隊ノ書戰ハ先頭偏重ノ同航戰ニ依ルヲ建前トシ適時展開ヲ了シテ敵主力ノ前程ニ進出シ敵ノ先頭ヲ壓スル如キ對勢ノ獲得ニ努メ各部隊協同シテ急速敵主力ノ一角ニ殺到シ全

軍ノ攻守力ヲ集中シテ敵ヲ撃滅スルヲ基本的要領トス

敵方我ト反對方向ニ展開スルカ又ハ戰鬪中反轉スル場合ニハ反航戰ヲ行フヲ例トス

第六十四 書戰種別左ノ通定ム

種別	戰鬪	要領
甲	戰艦戰隊ノ戰鬪開始後機ヲ見テ全軍突擊ヲ行フ 視界極メテ良好ナル場合戰艦戰隊ハ暫ク主砲ノ 最大仰角附近ノ遠戰ヲ行ヒ補助部隊ハ敵主砲ノ 有効射程圈内ニ入ラザル如ク行動シ大口徑砲ト 巡洋艦戰隊ノ魚雷攻撃トニ依リ戰機ヲ啓開シ全 軍急速突擊ニ移轉ス	第一法 先頭隊進出機動シ合シ テ展開ス
乙	戰艦戰隊ノ戰鬪開始後機ヲ見テ全軍突擊ヲ行フ 視界極メテ良好ナル場合戰艦戰隊ハ暫ク主砲ノ 最大仰角附近ノ遠戰ヲ行ヒ補助部隊ハ敵主砲ノ 有効射程圈内ニ入ラザル如ク行動シ大口徑砲ト 巡洋艦戰隊ノ魚雷攻撃トニ依リ戰機ヲ啓開シ全 軍急速突擊ニ移轉ス	第二法 全軍結束ノ儘展開ス 特令ナケレバ本法ニ依 ル
丙	全軍緊縮隊形ヲ以テ局所優勢ヲ持シツツ敵主力ノ一翼ニ迫リ決戰ス	

第六十五 反航戰種別左ノ通定ム

種別	戰鬪	要領
反航戰 A 法	補助部隊ノ大部ヲ以テ敵主力ノ前程ニ進出之ヲ攻撃ス	
反航戰 B 法	現對勢ヲ以テ反航戰ヲ行フ、特令ナケレバ本法ニ依ル	

第六十六 水上部隊書戰實施ノ基本的要領左ノ如シ 但シ各部隊指揮官ハ戰況ニ應ジ戰場所在最

高指揮官ノ意圖ニ合スル如ク機宜ノ行動ニ遺憾ナキヲ期スルモノトス

一、甲及乙晝戰第一法ニ於テハ先頭隊（機動部隊前衛）ハ機宜敵方ニ進出敵情偵知ニ努メ展開
下令ニ依リ高連戰艦隊ハ主隊斜前約八杆附近ニ占位敵主力ニ對シ主隊、戰艦部隊ト同時砲
戰ノ開始スル如ク行動シ其ノ他ノ先頭隊ハ主隊砲戰開始時敵主力ニ對シ有効ナル雷撃ヲ加フ
ルニ努メ戰鬪序列ニ入ル如ク行動ス此ノ場合先頭隊指揮官ハ其ノ發射時刻及魚雷到達豫想時
刻ヲ報告スルモノトス

甲及乙晝戰第二法ニ於テハ先頭隊ハ遠ク進出セザルノ外概ネ第一法ニ準ジ行動ス

二、主隊ハ敵主力ノ先頭ニ對シ砲火ヲ集中ス主隊砲戰開始豫想時刻ハ其ノ約一時間前迄ニ之ヲ
全軍ニ豫告シ砲戰開始ハ攻撃目標ト共ニ之ヲ全軍ニ通告スルヲ例トス

砲戰中煙幕ヲ以テ敵ヲ分撃スルニ努ムルヲ例トス

敵ノ一部敵主力ヨリ進出スルモノアル場合敵主力ニ對スル砲戰開始ニ餘裕アルトキハ適宜之
ヲ砲撃ス

三、先頭隊及殿隊ハ各當該指揮官指揮ノ下ニ機宜敵ヲ攻撃シ且敵主力ニ對シ魚雷攻撃ヲ加フ

四、突撃用意ハ突撃移轉約十五分前ニ合スルヲ例トス但シ狀況ニ依リ直ニ突撃ヲ令スルコトアリ

五、突撃ニ移轉セバ全軍近迫猛撃巡洋艦戰隊ハ水雷戰隊突撃路ノ啓開ニ努メツツ反覆魚雷攻撃

ヲ加ヘ水雷戰隊ハ敵ノ反轉又ハ大回避ニ應ジ得ル如ク相協力シテ敵主力ヲ強襲ス

六、戰鬪中來襲スル敵機ニ對シテハ見張及電波哨戒ヲ嚴ニシテ速ニ之ヲ發見全軍ニ警報シ對空

砲火ノ威力發揮及回避運動竝ニ適切機敏ナル應急處置ニ依リ敵機ヲ攻撃又ハ回避シ或ハ被害ノ極限シツツ戦闘ヲ繼續スルモノトス

七、戰場ニ在ル潜水艦ハ機宜敵ヲ攻撃ス

八、敵敗退スルトキハ之ヲ追撃シテ殲滅ス

第四節 薄暮戰

第六十七 水上部隊薄暮戰種別左ノ通定ム

種別	戰鬪	要領
甲 薄暮戰	一 甲晝戰ニ準ジ一氣ニ決戰ヲ強行ス、特令ナケレバ本法ニ依ル	
乙 薄暮戰	夜戰轉入ヲ目的トシ夜暗ニ入ルヲ待チツツ對峙戰ヲ行フ	

第六十八 薄暮戰ノ實施ハ晝戰ノ要領ニ依ルノ外左ニ依ルヲ例トス

- 一、極力敵ヲ日沒方向ニ見ル如ク占位展開シ天象ヲ利用シテ戰鬪ス之ニ反スル場合ハ日沒後背景煙幕ヲ以テ敵ノ視認ヲ妨グルヲ例トス
- 二、乙薄暮戰ニ在リテハ各個撃破ニ陥ラザル如ク各隊結束ヲ固クシテ行動ス

第五節 夜戰

第六十九 航空戰ノ成果ニ乗ジ水上部隊進撃スルトキ夜暗ニ入ラバ水上部隊ハ夜戰ヲ以テ敵ヲ捕

第七十 夜戦ハ適切ナル指揮統制ノ下ニ各部隊ノ緊密ナル協同ト特長發揮トニ依リ猛烈果敢ナル攻撃ヲ加ヘ所在ノ敵ヲ一舉ニ撃滅スルヲ本旨トス

第七十一 夜戦決行ニ際シテハ豫メ夜戦種別、參加部隊(要スルトキ)、夜戦部署ノ大綱及爾後ニ於ケル各部隊ノ行動ニ關シ必要ナル事項ヲ令示スルモノトス

第七十二 夜戦種別左ノ通定ム

種別	戰	闘	要	領
甲	夜戦	一日標ニ對シ全軍結束シテ夜戦ヲ決行ス		
乙	夜戦	敵分在スルトキ概ネ我が全力ヲ以テ先ヅ最近最有力ナルモノヲ撃滅シ次デ他ニ移ル		
丙	夜戦	敵分在スルトキ我亦適宜分進シテ夜戦ヲ決行ス		
丁	夜戦	潰走シツソナル敵ヲ追撃シ概ネ晝間追撃戦ノ要領ニ準ジ捕捉撃滅ス 敵ノ損傷艦ハ一部ノ兵力ヲ指定シテ之ヲ撃滅ス		
戊	夜戦	敵阻止(警戒)部隊アル場合隱密ニ之ヲ脱過シ敵主隊ニ對シ夜戦ヲ決行ス		

第七十三 夜戦ノ實施ハ左ノ要領ニ依ルヲ例トス

、薄暮時迄ニ彼我水上部隊相會スルニ至ラズシテ夜戦ヲ決行セントスルトキハ航空機ヲ以テ觸接攻撃ニ努メ夜戦部隊ハ急速進出ス

二、夜戦部隊ハ觸接機ノ誘導ニ依リ戰艦戰隊ノ支援ヲ受ケ又ハ獨力ヲ以テ各隊協力局所優勢ヲ持シテ敵警戒兵力ヲ擊破進出シ攻撃主目標ヲ捕捉一側又ハ包圍攻撃ヲ以テ主目標ニ對シ肉迫襲撃ノ決行ス

三、敵ノ有力ナル阻止部隊ニ對シテハ之ヲ擊破シタル後進出スルヲ例トス

但シ水雷戰隊ハ極力此ノ渦中ニ投ズルヲ避ケ又情況ニ依リテハ全軍隱密ニ敵阻止部隊ヲ迂回脱過スルモノトス

四、高速戰艦戰隊ハ積極的ニ夜戦ニ參加シ夜戦部隊ノ掩護推進ニ任ズルヲ例トス

五、航空母艦ハ夜戦海面ニ進入スルコトナク航空機ニ依ル索敵觸接ヲ以テ夜戦部隊ニ協力シ且夜間航空攻撃ノ行フヲ例トス

六、潜水艦ハ索敵ニ協力スルノ外夜戦ニ參加セザルヲ例トス

但シ夜戦部隊ト混淆スルコトナクシテ好機敵ヲ攻撃スルガ如キハ此ノ限ニ在ラズ

七、攻撃目標ハ一般ニ敵航空母艦、戰艦、大巡ノ順トス但シ攻略部隊ヲ伴フ敵ニ對スル邀撃作戰ニ於テハ敵輸送船團ヲ主目標トスルヲ例トス

八、必要ニ應ジテ發射ヲ行フノ外極力肉迫襲撃ヲ行フモノトス

九、夜間襲撃スル敵機ニ對シテハ適切ナル運動ニ依リ之ヲ回避シツツ戰鬪ヲ繼續スルヲ例トス
十、局地夜戦ニ關シテハ本節ニ依ルノ外本章第八節ノ規定ニ依ルモノトス

第六節 黎明戦

第七十四 水上部隊ノ黎明戦ハ天象ヲ利用シ又ハ敵ノ分散ニ乗ジ敵ヲ撃滅スルヲ本旨トフ

第七十五 黎明戦種別左ノ通定ム

種別	戦	闘	要	領
甲 黎明戦	航空部隊又ハ潜水部隊ヲ以テ敵艦隊ヲ終夜捕捉攻撃シツツ水上部隊ハ集結接敵シ内戦ノ要領ニ依リ黎明戦ヲ行フ			
乙 黎明戦	一、水上部隊ノ夜戦ヲ中途切上ゲ甲黎明戦ノ要領ニ依リ戦闘ス 二、夜戦ノ切上ク時機ハ日出約四時間前トシ集結ハ敵主力ヨリノ方位距離ヲ以テスル主隊（戦場最高指揮官ノ率ユル部隊）ノ位置ヲ基準トシ各部隊ノ占位順序ヲ指示シテ之ヲ行フ例トス			
丙 黎明戦	主隊艦隊ハ敵ノ終夜反復攻撃シ主隊戦艦部隊ハ之ニ加入黎明戦ヲ行フ			

第七十六 黎明戦ノ實施ハ左ノ要領ニ依ルヲ例トス

一、甲乙黎明戦ニ於テハ敵ヲ東方ニ見ル如ク占位展開シ戦艦戦隊ノ砲戦ハ日出約三十分前ニ開始スルヲ例トス

二、丙黎明戦ニ於テハ主隊、戦艦部隊ハ一般ニ主夜戦部隊ノ占位方向ヨリ接敵攻撃スルヲ例トス

此ノ場合主隊ヨリ隔在スル夜戦部隊ハ各個撃破ニ陥ラザルト共ニ味方ノ混亂ヲ來サザル様留

直ノ黎明前集結シ所在ノ敵ヲ攻撃シツツ主隊方向ニ集合スル如ク行動シ主隊附近ノ夜戰部隊ハ主隊ト連繫シツツ引續キ黎明戰ニ入ル

第七節 咄嗟戰

第七十七 天候視界ノ狀況等ニ依リ彼我水上部隊突如遭遇スルトキハ咄嗟戰ヲ以テ敵ヲ擊滅ス

第七十八 咄嗟戰ハ見張、電測兵器、聽音機等ノ活用ト周到ナル準備トヲ以テ敵ノ機先ヲ制シ各部隊緊密ナル連繫ヲ以テ局所優勢ヲ持シツツ敵ヲ捕捉擊滅スルヲ本旨トス

第七十九 機動部隊前衛又ハ其ノ他ノ部隊敵航空母艦ニ對シ咄嗟戰ヲ行フ如キ場合ハ之ト稱刺スルノ覺悟ヲ以テ之ヲ擊滅スルモノトス

敵航空母艦ニ對シテハ爲シ得レバ其ノ風上側ヨリ近迫シ航空機發艦ノ機能ヲ封ジツツ攻撃スルノ可トス

第八十 咄嗟會敵セルトキ特ニ敵航空母艦又ハ上陸船團ニ會敵セルトキハ速ニ敵情ヲ偵察シテ之ヲ報告通報シ味方航空部隊等ノ攻撃ニ便ナラシムルモノトス

第八節 局地戰

第八十一 局地戰ニ於テハ特ニ敵情偵知及地象、天象ノ利用ヲ周密ニスルト共ニ我が企圖ヲ秘匿シ適切ナル陽動牽制等ト相俟ツテ敵ヲ致シ會敵ニ際シテハ先制奇襲全軍克ク連繫シテ進退シ我

カ兵力ノ特長ヲ發揮シテ敵ヲ擊滅スルヲ本旨トス

第八十二 局地戦ハ地形ノ制肘ヲ受クルコト大ナルノミナラズ彼我互ニ夜暗ヲ利用シテ行動シ又
脆計奇襲ノ企圖スルコト多キヲ以テ特ニ事前ノ研究及演練ヲ周密具體的ニシ以テ復雜困難ナル
戦場裡猶克ク空、水、陸各部隊ノ連繫竝ニ敵情ニ應ズル進退駢引、味方識別、來襲敵機ニ對スル
處置等ニ遺憾ナカラシメ整然タル指揮統制ノ下ニ戦闘ヲ始終スルコト必要ナリ

第八十三 局地戦ニ於テハ地形、敵情等ニ應ジ參加兵種、兵力及戦法ヲ適切ナラシムルニ非ザレ
ハ戦圖實施意ノ如クナラズ又小舟艇ヲ主トスル局地戦ニ在リテハ假設ノ兵器ヲ以テ敵ヲ制シ臨
機ノ處置ノ以テ意外ノ功ヲ奏スル等工夫創意ノ餘地特ニ大ナルモノアルヲ以テ適切ナル兵種、
兵力ノ選定シ且我が兵力ノ特長ヲ發揮スル如ク戦法ヲ工夫スルト共ニ敵ノ戦法及兵力ノ特長ニ
留意シ其ノ推移ヲ洞察シテ常ニ積極的ニ敵ノ工夫ヲ凌駕シ苟モ無策又ハ怠慢ヲ以テ敵ニ乗ゼラ
ルルカ如キコトナカラシムルモノトス

第八十四 局地特ニ夜間ニ於テハ咄嗟會敵ノ算多キヲ以テ終始咄嗟戦闘ニ備ヘツツ警戒ヲ至嚴ニ
シテ行動スルモノトス

第八十五 局地戦圖ニ於ケル潜水艦ノ用法ニ關シテハ地形、敵情等ニ應ジ其ノ特長ヲ發揮セシム
ル如ク研究計畫シ機ニ臨ミテ適切ナル配備ニ依リ作戰セシムルモノトス

第八十六 局地夜戦ノ實施ハ左ノ要領ニ依ルノ外本章第五節ノ規定ニ依ルモノトス
一、通信諜報竝ニ基地航空部隊及潜水部隊ノ兵力ヲ以テ局地全面ニ互ル敵情ヲ明ニシ且航空攻

撃ノ以テ敵ノ撃破シ猶進出シ來ル敵ニ對シテハ基地航空部隊又ハ夜戰部隊ノ航空機ヲ以テ觸接ス

二、地象天象ノ利用、電波管制、偽航路ノ選定等ニ依リ極力我が企圖ヲ祕匿シツツ進出シ要ス

レハ陽動牽制ノ行フ

敵ノ觸接機ニ對シテハ戰團機ノ以テ之ヲ擊墜スルニ努ムルノ外極力之ガ離脱ヲ圖ル

三、兵力部署及指揮統制ヲ明確ニシ會敵配備及接敵隊形ヲ適切ニシテ混戰及味方打ヲ防止スル

ト共ニ行動豫定及之ガ變更ニ處スル方策ヲ出來得ル限り具體的ニ案畫シ航空機トノ連繫ヲ特

ニ緊密トフシム

四、敵ノ暗計ノ警戒シ又兇張及電波哨戒ヲ嚴ニシテ咄嗟會敵ニ備ヘ會敵セバ機先ヲ制シテ攻撃

力ヲ集中シ一氣ニ敵ヲ擊滅ス

敵ガ電波探信儀ノ利用スルヲ知リツツ視界差不利ナル方向ニ盲進シ又ハ敵電探射撃ノ回避ニ

偏シテ魚雷發射ノ機ノ失シ或ハ又敵航空機ノ回避ニ捉ハレテ兵力分散ノ儘水上戰鬪ヲ交フル

ガ如ク共ニ深ク戒ムル必要アリ

五、局地夜戰ハ輕快部隊及航空部隊ヲ以テ之ヲ實施スルヲ例トシ戰艦部隊ハ情況特ニ必要トス

ル場合ニ外參加セテ潜水艦ハ特定ノ地點ニ於テ敵攻撃ニ任ゼシムルコトアリ

(終)

第三編 要 務

第一章 通 信

第一節 通 則

一、各隊、艦ハ所在航泊ヲ尚ハズ通信量ヲ節減シ且適切ナル通信方法ヲ撰擇シ以テ行動所在及企圖ノ秘匿ニ努ムルト共ニ通信ノ迅速確實ナル通達ヲ期スルモノトス但シ情況ニ依リ欺瞞通信ヲ行フヲ有利トスルコトアリ

二、無線通信實施ニ方リテハ電波輻射管制及暗號ノ使用ヲ適切ニシ通信防衛上遺憾ナキヲ期スルニトス

三、視覚通信實施ニ方リテハ敵情、天象地象ノ狀況及信文ノ内容等ヲ考慮シ適當ナル通信方法ヲ撰擇スルモノトシ必要ニ應ジ信文ノ暗號化、夜間ノ信號停止等ヲ行フモノトス

四、敵信利用ハ左ノ區分ニ依リ積極的ニ之ヲ行ヒ聯合通信隊及所定ノ通信隊ハ情報及資料ヲ所要ノ向ニ報告通報シ其ノ他ノ隊、艦ニ於テモ重要ナル敵情ヲ得タル場合ハ速ニ所要ノ向ニ報告通報スルモノトス

イ) 聯合通信隊

敵情一般

擔任方面ハ其ノ都度之ヲ定ム

(一) 特ニ施設配員ヲ有スル通信隊

別ニ定ムル所ニ依リ敵信利用ヲ分擔ス

(二) 右以外ノ通信隊

所屬部隊指揮官所定ニ依リ主トシテ同隊ノ作戰上必要ナル敵信利用ヲ行フ

(三) 各隊、艦

各隊、艦ノ作戰上必要ナル敵信利用ヲ行フ

但シ敵地ニ近ク行動スル隊、艦ハ局地ノ通信狀況ヲ諜知シ全般ノ作戰ニ資スルノ考慮アルヲ要ス

五、敵信妨害ハ妨信及偽電竝ニ偽交通ヲ混用スルヲ例トシ各部隊指揮官ハ情況有利ト認ムル場合

ハ麾下兵力ヲ以テ之ヲ行ヒ又ハ附近所在通信隊ニ之ヲ要求スルモノトス

六、欺瞞通信ノ實施ハ特令スルヲ建前トスルモ各部隊指揮官ハ情況有利ナル場合周到ナル準備ノ

モトニ之ヲ行フモノトス

七、欺瞞通信ハ情況ニ依リ一部兵力ヲ移動シ之ヲ行フヲ有利トスルコト多シ

第二節 艦船ノ通信

- 一、警戒航行中ハ電波ノ輻射ヲ嚴重ニ管制シ通信ハ主トシテ視覺通信ニ依ルヲ例トス
之ガ爲信號中繼艦ヲ配シ通報艦ヲ分派シ又ハ飛行機ヲ以テ文書ヲ傳達スル等ノ着意アルヲ要ス
- 二、警戒航行中ノ部隊電報ヲ發信スル場合ハ特ニ艦艇又ハ航空機ヲ派遣シ離隔セル地點ヨリ電波
ヲ輻射セシムルヲ有利トスルコトアリ
- 三、夜間及視界不良ノ際視界限度附近ニ敵存在ノ虞アル場合ハ特ニ要スル場合ノ外發光信號ノ使
用ヲ停止シ遠達性少キ電波ヲ以テスル無線通信ヲ主用スルヲ例トス
- 四、戰鬥中ハ視覺通信無線通信ノ使用區分ヲ適切ニシ全通信力ヲ活用スルヲ要ス
但シ必要以上ニ電波ヲ輻射シ重要通信ノ通達ヲ妨ゲ若ハ敵ニ逆用セラレザルコト肝要ナリ
- 五、戰鬥既ニ混亂ニ陥リタル後ハ所要ニ應ジ識別信號燈ヲ活用スルヲ要ス
- 六、警戒碇泊中ノ通信ハ視覺通信、有線及陸上固定通信施設ヲ活用シ遠達性電波ヲ輻射セザルモ
ノトシ遠達性ナキ電波ノ管制及視覺通信實施ノ程度ハ敵情、泊地ノ狀況、警戒ノ程度等ニ依リ
所在首席指揮官之ヲ定ムルモノトス

第三節 通信隊ノ通信

- 一、通信隊ハ編制所屬ニ拘ラズ各部通信ノ迅速確實ナル通達ニ努ムベキモノニシテ特ニ艦船ノ通
信ニ對シテハソノ電波輻射ヲ極限スル如ク積極的ニ協力スルモノトス
- 二、敵信利用、敵信妨害ハ通信隊ノ主要任務ノ一ナルヲ以テ特ニ施設配員ヲ有セザル通信隊ニ在

リテモ隨時敵信ヲ利用シ又妨害ヲ行ヒ得ルノ準備アルヲ要ス

第四節 航空部隊ノ通信

一、航空機ハ特ニ電波輻射ヲ極減シ行動企圖ノ祕匿ニ努ムルヲ要ス

二、航空基地ノ通信ハ通信量、交信對手ノ變化、氣象電報ノ送受等ニ依リ不用意ノ中ニ企圖ヲ暴露スルコト多キヲ以テ他部隊通信機關ノ利用、常續的氣象放送等ニ依リ企圖祕匿ニ努ムルヲ要ス

特ニ航空兵力常駐セザル基地ニ於テ然リトス

三、飛行機隊ノ訓練ニハ電波ヲ輻射セザレバ効果舉ラザルモノ多キヲ以テ使用電波、通信要領等ニ注意シテ之ヲ實施スルト共ニ積極的ニ欺瞞通信ヲ行ヒ企圖及行動ヲ偽裝スルヲ有利トスルコト多シ

第二章 邀撃帶ノ戰鬪

第一節 常續補給準備

一、海上及陸上ニ於ケル輸送路ヲ整備ス

敵ノ妨害大ナル海域ニ於ケル海上輸送路ハ舟艇防護及對空施設ヲ整備セル基地ヲ概ネ一夜航程

間隔に連絡スルモノトシ出來得ル限り天然ノ地形ヲ利用ス

二、敵情地形等ニ應シ適當ナル性能ヲ有スル輸送用船舟ヲ準備シ且之ガ消耗補充ヲ考慮ス

輸送用船舟ハ形態過大ナラズ運動亦輕快ニシテ而モ搭載能力ニ富ミ特殊ノ揚搭施設及適當ナル防衛力ヲ有スルヲ以テ理想トス

低速ニシテ而モ揚搭能力十分ナラザル船舟ヲ前線輸送ニ使用スルハ適當ナラズ又驅逐艦等ヲ輸送ニ充當スルハ眞ニ已ムヲ得ザルノ對策ニシテ之ヲ濫用スルハ嚴ニ慎ムベキモノトス

三、敵ノ妨害ニ對シ我が輸送用船舟ヲ掩護スルト同時ニ敵ノ輸送ヲ阻止スベキ兵力トシテ航空機、魚雷艇、武裝大發等適當ナル性能ヲ有スルモノヲ準備ス

此等ノ兵力ハ其ノ性能及兵裝ニ於テ常ニ對抗兵力ヲ凌駕スル如ク改善工夫スルモノトス

四、航空機ニ依ル緊急輸送方策ヲ準備ス

五、輸送用潜水艦ヲ準備ス

潜水艦ハ航空機ニ比シ大ナル搭載力ヲ有シ敵ノ視認ヲ避ケツツ輸送ヲ實施スルニ有利ナル點アリト雖モ戦闘用潜水艦ヲ輸送ニ充當スルハ其ノ全能ヲ發揮セシムル所以ニアラザルヲ以テ特種ノ輸送用潜水艦ヲ準備スル必要アリ

第二節 敵前輸送及敵輸送ノ阻止

一、敵機及敵艦艇ノ妨害ヲ豫想スル海域ノ輸送作戰ニ於テハ航空機、艦艇及輸送船舟ヨリ成ル輸

三、作戰部隊ノ編制シ出來得ル限り之ヲ統一指揮ノ下ニ行動セシメ且輸送作戰部隊ハ豫メ之ヲ戰
闘部隊ニ警戒隊トシ輸送部隊トニ區分シ敵出現セバ戰闘部隊ハ專ラ敵擊滅ヲ目的トシテ作戰シ

輸送部隊ハ彼我ノ情勢ヲ見極メ敵ノ虛ニ乘ジテ其ノ目的ヲ達成スル如ク行動ス
輸送用特種船舶ヲ用テ天象、地象ヲ利用シツツ努メテ隱密的ニ行動セシメ且航空機及艦艇ニ依
ル掩護ノ適切ナラシムルトキハ敵ノ妨害ヲ蒙ルコト少クシテ輸送ヲ實施シ得ルコト多シ

二、輸送計畫ニ關シ考慮スベキ事項概ネ左ノ如シ

イ 準備

(一) 關係各司令部又ハ部隊トノ打合セヲ周密ニシ特ニ航空部隊ト水上部隊、輸送部隊ト揚陸
作業擔任部隊、輸送部隊ト水上戰闘部隊ノ協同ニ遺憾ナカラシム

(二) 搭載要領、揚陸作業要領ヲ定ム

(三) 航路、行動豫定、遲退法、揚陸作業中ノ警戒法、救難部署等ヲ定ム

(ロ) 航路

(一) 敵機ヨリ被發見ノ機會少ク且味方直衛機ノ掩護ヲ受クルニ便ナル如ク選定ス

(二) 敵情ニ即應シ得ル如ク數段ニ備ヘ成ルベク同一航路ヲ反覆スルヲ避ク

(三) 接岸航路ハ有利ナルコト多キモ未決定ノ場合敵諜報機關アルヲ考慮スル必要アリ

ハ 行動豫定

航空隊は地帯ニ進入スル際ハ揚陸作業時機ヲ夜間ニ選ビ黎明時迄ニ敵小型機ノ攻撃圏外ニ避

返スノ態クスルヲ信トス

揚陸中ノ警戒

警戒隊ハ輸送船舟ノ外方五軒附近各哨區ヲ情況ニ依リ内外二段ニ分擔警戒シ敵ノ奇襲ニ備フ

輸送船舟ハ揚陸作業中漂泊ヲ可トスルコト多シ

揚陸作業

舟艇ノ現地ニ準備セシムルヲ例トスルモ要スレバ大發小發又ハ折疊浮舟ヲ携行ス

陸上ニ現場指揮官ヲ派遣シ揚陸人員ヲ區處シテ作業ヲ整理援助セシムルヲ可トス

揚陸地點ヲ區分シ舟艇往返ノ目標燈ヲ夫々揚陸地及艦側ニ點出セシム

三、敵ノ妨害アル場合輸送ヲ強行スベキヤ又ハ避退スベキヤニ關シテハ輸送計畫ヲ墨守シテ徒ニ

敵ノ計中ニ陥リ又ハ戦勦ノ情勢ノ見極ムルコトナクシテ過早ニ避退スルガ如キ何レモ適切ナラ

ズ要ハ全艦ノ情勢ニ鑑ミ時機適切ナル方途ニ出ヅルノ外ナク作戰全般ノ指揮官ト戦闘部隊及輸

送部隊各指揮官トノ氣合定メテ初メテ作戰適切ナルヲ得ルヲ以テ事前ノ計畫及研究ヲ周密

ニシ實地ニ方テ行ハシムル期ハルモノトス

四、敵ノ前線輸送一對シテハ砲臺又ハ潜水艦ヲ以テ其ノ輸送船ヲ待機泊地乃至洋上ニ奇襲撃滅

シ敵軍ノ前進ヲ未ルトシハ航空機、潜水艦又ハ水上艦艇ヲ以テ之ヲ洋上乃至前進泊地ニ攻撃撃

敵が輸送用特種船舟ヲ以テ常續的補給ヲ實施スル時ハ我亦之ガ阻止用兵力ヲ以テ煩ヲ厭ハズ掃蕩撃滅スルモノトス

第三節 相對峙スル地域ヨリ來攻スル敵ヲ阻止反撃スル戰鬪

一、敵ハ豫想上陸點ヨリ一夜航程附近ノ要地ニ上陸部隊ヲ準備シ上陸作戰用特種船舟ヲ以テ隱密進出ヲ企圖スルコト多キヲ以テ我亦之ガ對抗兵力ヲ準備シ且偵察監視ヲ嚴ニシ敵來攻セントスルトキハ極力天象、地象ヲ利用シテ敵ノ進路ヲ扼シ敵ヲ海上乃至泊地ニ於テ撃滅スルニ努ム

敵ハ我が航空偵察困難ナル天候ヲ利用スルコト多キヲ以テ敵來攻ノ氣配アルトキハ哨戒艇、潜水艦等ニ依ル監視偵察ヲ行フコト必要ナリ

二、敵水上進撃ニ呼應シテ陸上進撃ヲ企圖スル算アルトキハ我亦陸軍ト協同シテ豫メ道路、橋梁等ヲ破壞シ敵ノ來攻ニ際シテハ之ヲ空中、海上又ハ陸上ヨリ攻撃シテ其ノ進出ヲ阻止ス

三、敵ノ落下傘部隊來襲ヲ豫想スル方面ニ在リテハ飛行場及降下適地ニ對スル防衛ヲ準備シ敵落下傘部隊ヲ認ムルトキハ之ヲ空中又ハ着陸ノ瞬時ニ於テ撃滅ス

四、敵ハ我が防備ナキ地點ヲ選定シテ上陸據點ノ確保ニ努ムルヲ例トスルヲ以テ我ハ陸上及海上ヨリスル機動戰ヲ準備シ敵上陸ノ地歩固マルニ先チ之ヲ反撃撃摧スルコト肝要ナリ而シテ此ノ種戰鬪ニ關シテハ特ニ陸軍トノ協定及機動戰準備ヲ周密ニシ且敵來攻ノ氣配ヲ認ムルトキハ上陸ヲ豫想シ得ル地點ニ對シ豫メ出來得ル限りノ配備ヲ行フモノトス

五、敵ハ我方離島ヲ攻撃スル場合周密ナル偵察ノ後防禦薄弱ナル點ヨリ上陸ヲ企圖スルヲ以テ離島防備ニ關シテハ環礁内ニ面スル方面ト雖モ弱點ヲ存セザル如ク全周防備ヲ堅固ナラシムル必要アリ

六、敵泊地ニ進入セバ其ノ上陸舟艇發進前輸送船舟ヲ攻撃擊破スルニ努メ更ニ敵前進シ來ラバ之ノ水際ニ於テ擊滅ス

泊地又ハ水際戰鬪ニ備ヘテ準備スベキ兵力左ノ如シ

航空機、潜水艦、魚雷艇、武装大發、水中防備兵器、對水上砲臺、特戰車、接戰火器、水際防備兵器、對空火器、地上部隊、海上機動兵力等

七、敵ハ天明時泊地ニ進入シ航空機ノ掩護下ニ晝間上陸ヲ企圖スルコト多キヲ以テ我亦航空兵力ヲ集中シ敵上陸ノ阻止ニ併セテ航空擊滅戰ヲ行フコト必要ナリ

八、敵ハ裝備良好ナル器材ト組織的計畫トヲ以テ短時間ニ有力ナル部隊、兵器等ヲ揚陸シ數時間乃至數日間ニシテ高角砲臺、重砲臺等ヲ整備シ更ニ旬日ニシテ飛行場ヲモ概成スルノ能力ヲ有スルノ反面計畫以外ノ作戰行動ニ對シテハ戰鬪力發揮ヲ十分ニスル能ハザルノ弱點ヲ有スルヲ以テ敵上陸軍ニ對スル反擊作戰ニ於テハ必ズシモ我方ノ態勢整備ヲ顧慮スルコトナク陸上及水上機動ヲ以テ勇猛果敢ナル攻撃ヲ加ヘ敵ノ態勢整ハザルニ乗ジ之ヲ擊破スルコト特ニ緊要ナリ

九、敵ノ來攻ニ際シテハ速ニ敵兵力及行動ノ全貌ヲ明ニシ我兵力ノ移動集中ヲ適切迅速ナラシム

ル必要アリ之ガ爲ニハ所要ノ偵察哨戒ヲ實施スルト共ニ各部隊ハ其ノ擔任正面ニ於ケル正確ナル情況ヲ適時報告シ最高指揮官ノ判斷ヲシテ適正ナラシムルニ努メザル可ラズ

敵來ラザルニ敵來攻ノ誤報ヲ發シ又ハ敵ノ牽制陽動ヲ看破スル能ハズシテ敵情ヲ過大ニ報告シ或ハ敵ノ進入ニ氣付カズシテ報告ノ機ヲ失スルガ如キ何レモ其ノ實例ニ乏シカラズ爲ニ最高指揮官ノ作戰指導ヲ困難ナラシメタルコトアリ、混亂裡ニ於テ克ク情勢ノ真相ヲ看破センニハ大局ノ判斷ヲ基礎トシテ當面ノ情勢ヲ判斷シ且情報源及其ノ經路ニ留意シテ冷靜ニ判定シ又此等ノ報告通報ニ際シテハ情勢判斷ノ確度又ハ情報源ノ附記ヲ怠ラザルコト肝要ナリ

第三章 先遣部隊ノ作戰

聯合艦隊先遣部隊ノ作戰ニ關スル細項ハ別冊聯合艦隊先遣部隊作戰要務草案及潜水部隊夜戰準則ニ依ル

第四章 航空戰

別冊聯合艦隊航空戰要務ニ依ル

第五章 夜戰

聯合艦隊ノ夜戰細項ニ關シテハ基本編制夜戰部隊指揮官制定「夜戰部隊戰策」ニ依ルモノトス

第六章 對空戰鬪

一、別冊聯合艦隊對空戰鬪要務ニ依ル

二、昭和十七年機密聯合艦隊命令第一五號對空戰鬪準則ハ右別冊發布ノトキ迄之ヲ試行ス

第七章 對潛水艦戰

一、對潛水艦戰ノ要訣ハ警戒ヲ嚴ニシテ所在ノ敵潛水艦ヲ必ズ發見シ執拗徹底的ナル攻撃ヲ加ヘテ確實ニ之ヲ擊沈シ且其ノ累積効果ニ依リ爾他ノ敵潛水艦乘員ヲシテ我ニ對スル攻撃ヲ企圖スルハ即自己破滅ノ因タルベキヲ自覺セシムルニアリ

二、敵潛水艦ニ對スル攻撃ヲ敏速ニ實施センガ爲ニハ味方潛水艦ノ行動所在ヲ確知シ且最近ノ敵潛水艦事情ヲ明ニシ置クコト極メテ肝要ナリ之ガ爲味方潛水艦ノ行動ハ其ノ豫定ヲ關係ノ向ニ通報シ敵潛水艦ノ存在ハ之ヲ發見又ハ諜知シタルモノ速ニ報告通報シ各隊（艦）ハ此等通報ノ受信及整理ニ努メ常ニ彼我ノ潛水艦事情ヲ明ナラシメ置クモノトス

三、敵潛水艦ニ對スル警戒ハ敵信利用及航空機ニ依ル哨戒並ニ水上艦艇ノ見張及電測兵器、水測

其ノ下ノ音ヲ依リ之ヲ完遂ノ期スルモノトス

其ノ門ハ水中探信儀、水中聽音機ハ近距離ニ、電波探知機ハ遠距離ニ、電波探信儀ハ浮上
潜水艦ノ音ヲ探知スル有効ナリ電波探信儀及水中探信儀ハ我方所在ヲ暴露スルノ不利アルモ敵潜
存在ノ疑アリ場合ハ之ノ使用スルヲ可トスルコト多シ

四、對潛時飛及攻ムル航空機及對潛艦艇（驅逐艦、海防艦、驅潛艇等）協同シテ實施スルヲ原則

トシ出來得ル限リ航空機及對潛艦艇ヲ以テ一單位ノ部隊ヲ編成スルモノトス

航空機及對潛艦艇ノ協同攻撃ニ關スル信號、海軍信號書（甲、乙）ニ依ルモノトス

五、對潛艦艇ニ依ル敵潜水艦掃蕩要領左ノ如シ

一、掃蕩法

（一）見張力

見張力ヲ用ルンツ水測兵器ヲ全幅活用シ潛航潜水艦ヲ捕捉攻撃スルヲ主眼トス

探信掃蕩ニアリテハ橫陣列距離間隔五杆速度一・二乃至一・四節、聽音掃蕩ニアリテハ潛航潛

水艦ノ聽音捕捉ニ適スル橫陣列及速度（距離間隔速度ハ聽音機ノ能力ニヨリ定ム）ニ依リ

之ヲ運動ヲ行ヒツツ掃蕩ス

（二）夜間

敵潜水艦ノ浮上課電中ヲ急襲スルヲ主眼トシ橫陣列距離間隔一・二乃至一・二杆速度一・二乃至

一・二節ヲ以テ觀察差（電探能力差）及潛航費消時ニ乗ジ掃蕩ヲ行フ此ノ場合電波探知機

活用ヲ有利トスルコトアリ又掃蕩中水測兵器ヲ極力活用スルト共ニ月明ニアリテハ之字運
動ヲ行フ

(ロ) 索敵法

推定敵速(潜航中二、五乃至三節夜間浮上中一五節程度)ニ對シ左ノ索敵法ヲ適用ス

(一) 索敵弧

(二) 並行式

(三) 電光式

(ハ) 掃蕩隊ノ編制

二隻ヲ一單位トスルヲ例トス

六、對潜艦艇ノ潜水艦攻撃要領

(イ) 要旨

潜航中ノ敵潜水艦ニ對スル攻撃ハ飛行機ノ誘導及水測兵器ノ全幅活用ニ依リ敵ヲ必滅スルヲ
主眼トス

二艦以上三艦以内ノ協同攻撃ヲ建前トシ已ムヲ得ザル場合ニ限り單艦攻撃ヲ行フモノトス
浮上潜水艦ニ對シテハ迅速ナル砲撃ヲ以テ一舉ニ之ヲ撃沈ス

(ロ) 掃蕩又ハ直衛配備中ノ攻撃要領

(一) 發見艦

直ニ警報ヲ發スルト共ニ増速攻撃運動ヲ開始ス

先ヅ敵潜水艦位置ニ對シ第一次爆雷攻撃ヲ加ヘ敵潜水艦存在推定位置ニ旗付浮標（夜間ハ發光器）ヲ投下ス

本攻撃ハ敵潜水艦ニ對スル實撃竝ニ脅威ヲ目的トス

次デ浮標ヲ基準トシ敵ノ推定針路ニ對シ水測ニ依ル索敵ヲ開始シ搜索ノ基準艦トナリ自艦ノ針路速力ヲ僚艦ニ通報協同艦ノ占位舷竝ニ距離ヲ指示ス

(一) 協同艦

隣接艦又ハ特令セラレタル艦ハ協同艦トナリ基準艦ノ指示位置ニ占位索敵ヲ開始ス

(二) 索敵中ノ運動ハ特令ナケレバ基準艦之ヲ誘導ス

(四) 第二次發見（探知聽音）艦

索敵中敵ヲ發見セル艦ハ之ガ保續ニ努メ刻々敵位置ヲ僚艦ニ通報ス

此ノ場合敵ノ反撃ニ對シ警戒シ成ル可ク敵ニ向首シ要スレバ速力ヲ低下ス

(五) 僚艦ハ近キモノヨリ順次攻撃艦トナリ第二次發見艦ノ誘導ニ從ヒ速ニ敵潜水艦ノ直上ニ

濃密ナル散布帶ヲ構成スル如ク爆雷必中射法ヲ以テ攻撃ス

此ノ場合近迫ニ際シ數個ノ脅威投射ヲ行ヒ探知艦及自艦ニ對スル敵潜水艦ノ攻撃ヲ封ズルヲ有利トスルコトアリ

第二次攻撃ハ散布界ヲ濃密ナラシムル爲中速力以下トスルヲ要ス

(六) 協同艦ノ攻撃終了セバ第二次發見艦ハ必中射法ニヨリ攻撃ヲ行

(ハ) 單艦攻撃ノ要領

單艦攻撃ノ場合ハ敵ノ反撃ニ對シ警戒ヲ嚴ニシツツ探知(聽音)攻撃ヲ反覆スルモノトス

(ニ) 水中測的兵器ヲ裝備セザル艦ノ攻撃法

水測兵器ヲ有スル誘導艦アル場合ハ之ガ誘導ニ依リ攻撃ス

誘導艦ナキ場合ハ發見攻撃ヲ反覆ス

(ホ) 二艦同時ニ發見(探知聽音)セル場合

左ノ順ニ依リ攻撃基準艦トナル

(一) 敵潛ニ近キモノ

(二) 距離等シキ場合ハ前方占位艦、同一關係ノ時ハ先任艦

(ヘ) 直衛ノ列中ニ在ル水雷戰隊旗艦敵潛ヲ發見シタル場合ハ速ニ警報ヲ發シ要スレバ脅威投射

ヲ實施シツツ適宜ノ驅逐艦ヲ指定シテ攻撃セシムルヲ例トス

情況ニ依リ旗艦自ラ基準艦トナルヲ有利トスルコトアリ

七、攻撃後ノ處置

攻撃後ハ氣泡油絞等ニ依ル敵ノ欺瞞策ヲ看破スルノミナラズ明ニ擊沈セリト認メラルル場合ニ

於テモ更ニ水測兵器ノ全幅活用ニ依リ攻撃効果ノ確認ニ努ムルモノトス

効果確實ナラザル場合ニ於テハ任務上支障ナキ限り爆雷ノ有無ニ拘ラズ少ク共三日二晩ハ監視

制壓ヲ行ヒ敵ノ浮上ヲ捕捉スルニ努メ之ガ必滅ヲ期スルモノトス

任務上長期制壓不能ノ場合ハ已ムヲ得ザル場合ノ外友軍對潛部隊來着マデ監視制壓ニ任ズルヲ例トス

八、爆雷ノ測定深度

敵潛露頂潛航ノ場合

三〇米

深々度潛航ノ場合

六〇乃至一二〇米

(備考)

敵潛ハ我が攻撃ヲ感知セバ深々度ニ潜伏スルヲ例トス

敵潛ヨリ淺キモノハ効果尠キヲ以テ發見後ノ時間ノ經過ニ從ヒ深度ヲ改調スルヲ要ス

第八章 對魚雷艇戰

敵魚雷艇ニ對スル戰鬪ノ一般要領左ノ如シ

一、航空機ヲ以テ敵魚雷艇基地ヲ奇襲撃滅ス

二、敵魚雷艇ノ出沒ヲ認ムルトキハ薄暮前航空機ヲ以テ敵魚雷艇ニ觸接シ航空機、魚雷艇、武装大發等ヲ以テ敵魚雷艇ヲ捕捉撃滅ス

三、敵魚雷艇ノ出沒スル海域ニ進入セントスルトキハ敵魚雷艇ト協同スル敵航空機ヨリノ離脱ニ

努メ目前方ニ警戒艦艇ヲ配スルヲ例トス

四、驅逐艦ノ對魚雷艇戰鬥要領左ノ如シ

(イ) 見張ヲ嚴ニシ敵魚雷艇ヲ發見セバ之ニ向首シ射撃準備ヲ整ヘ距離約三杆ニ於テ三〇度乃至

四〇度回頭シ舷側砲火及機銃ノ猛射ヲ浴セテ一舉ニ敵ヲ擊沈ス

(ロ) 敵魚雷艇ノ發射ニ注意シ敵魚雷ヲ回避シツツ戰鬥ス

(ハ) 敵發見後ノ使用速力二〇乃至二八節程度、無照射、無照明射撃ヲ可トス、又前部砲ハ眩惑

防止ノ爲使用セザルヲ可トスルヲ多シ

(ニ) 前進泊地入泊中ハ敵魚雷艇ニ對シ哨艦艇ヲ配備ス

哨艦艇ハ約四杆附近ノ内線ニ於テ敵魚雷艇ノ侵入ニ備ヘ約六杆附近ノ外線ニ於テ敵魚雷艇ノ攻撃擊攘ニ任ズルヲ例トス

第九章 船舶護衛

一、船舶護衛ハ航空機及護衛艦艇ヲ以テ之ヲ實施スルヲ原則トス

航空機ヲ有セザル護衛部隊(艦艇)ヲ以テ船舶護衛ヲ實施スルトキハ特ニ協力航空部隊トノ連絡ヲ緊密ニシテ適時航空機ノ協力掩護ヲ受クルニ努ムルモノトス

二、護衛擔任部隊以外ノ艦艇指揮官船舶護衛ヲ命ゼラレタルトキハ現地ノ海軍海上交通保護機關

ニ連絡シテ自ノヲ任務、哨頭行先竝ニ行動海面ノ敵及友軍ノ動況ヲ明ニ通知シテ航行指揮官ハ

隊指揮官ト下協議シテ護衛要領ヲ定ムルモノトス

運航指揮官アラズル場合ハ左ノ細項ヲ定メ各船長ニ令示ス

(一) 船團ノ編成

(二) 航行隊形及使用速力

(三) 航路ト泊地

(四) 護衛要領

(五) 會敵ノ場合ノ處置

(六) 自衛兵器使用ニ關スル守則

(七) 運動通信、味方識別信號規程

(八) 救難要領

陸軍輸送船隊ニ關シテハ「上陸作戰綱要」ニ準據シ陸軍部隊指揮官ト協定シ前項ニ準ジ護衛細項ヲ定ム

三、船舶ノ航行隊形

(イ) 對替警戒ヲ主トスル場合

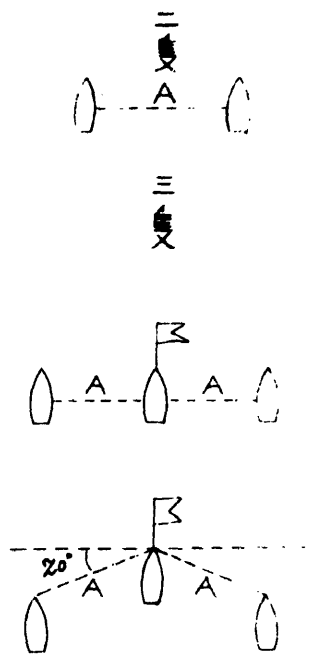
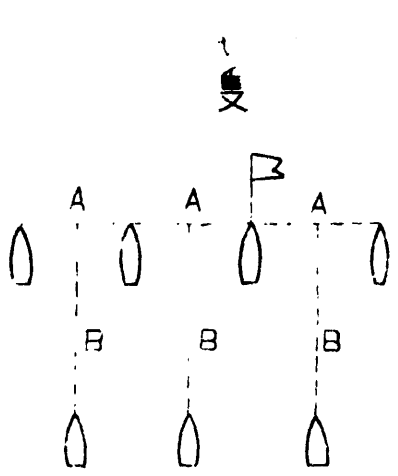
隊形ハ縱長ヨリ橫長ヲ有利トシ矩形的隊形ヨリモ扇形列ヲ有利トス

重要船舶ノ隊ノ中支部、優速ナル船舶ヲ兩側ニ占位セシム

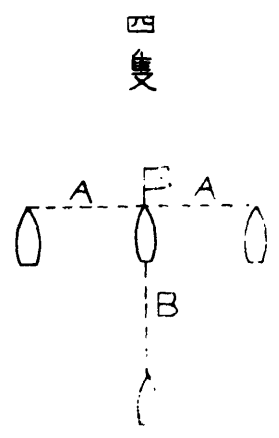
四

(一) 對空警戒ヲ行ハル場合

隻數小ナルトキハ單縱陣、隻數大ナルトキハ距離ニ乃至四杆 横陣列ヲ例ス



- 備考
- 一、Bハ巡航指揮官ノ乗船トス
 - 二、A……六〇〇乃至八〇〇米
 - 三、B……六〇〇乃至八〇〇米



水測兵器、電測兵器ノ活用及會敵處置ヲ顧慮シ其ノ配備ヲ定ム

(一) 護衛艦一隻ノ場合

船團ノ後方一艀内外ニ占位シ左右ヲ移動警戒ス

(二) 護衛艦二隻ノ場合

船團ノ左右正横後二〇度一艀附近

(三) 護衛艦三隻ノ場合

船團ノ左右正横後二〇度及中央後方一艀附近各一隻宛

(四) 護衛艦四隻ノ場合

(三)ノ外更ニ前方ニ一隻ヲ配ス

(ロ)

一五節以上ノ場合

(イ)ニ比シ高速化スルニ隨ヒ前方警戒ニ重點ヲ置キ各艦ノ占位ヲ定ム

五、航行

「商船隊運動竝ニ通信規程」又ハ「輸送船隊運動竝ニ通信規程」ニ依ルノ外艦隊警戒航行要領ニ準ズルモノトシ視界特ニ狭小ナル場合ノ外晝夜ノ別ナク之字運動ヲ行フヲ例トス

六、會敵時ノ處置

(イ) 對水上艦艇

護衛隊ハ直ニ全力ヲ舉ゲテ敵ヲ攻撃シ船團ハ安全ナル方向ニ避退ス

(ロ) 對潜水艦、航空機

「大東亞戰爭中海上交通保護要領」ニ依ル

七、救難

「大東亞戰爭中海上交通保護要領」ニ依ル

第十章 砲 戰

一、其戰ニ於ケル敵主力ニ對スル大口徑砲射撃ハ所在戰艦戰隊結束シ一齊ニ之ヲ開始スルヲ建前トス、之ガ爲第一戰隊（所在戰艦戰隊先任指揮官）ハ砲戰開始時刻ヲ豫報スルト共ニ主砲射撃開始ヲ通報ス

二、砲戰ハ効果ヲ豫期シ得ル限り遠距離ヨリ之ヲ開始シ機ヲ見テ砲力ヲ著シク損セザル限り敵ニ近迫猛撃ス

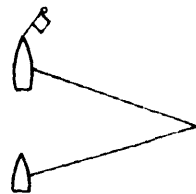
但シ乙其戰ヲ實施スル場合ニハ突撃時迄大口徑砲最大仰角附近ノ砲戰ヲ行フ

三、主攻撃點ヲ敵主力ノ先頭トス、但シ反航戰B法ニ在リテハ情況ニ依リ主攻撃點ヲ敵ノ後尾ニ選定スルコトアリ

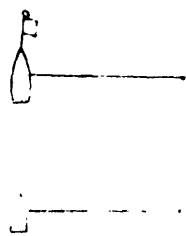
四、砲火指司法左ノ通定ム

(イ) 單隊ノ砲火指向法

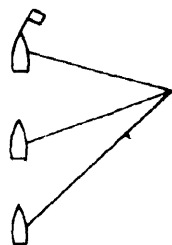
1S
3S
甲法



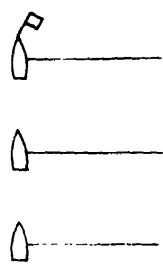
乙法



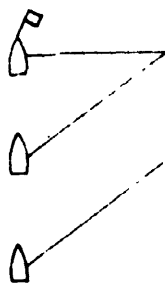
2S
甲法



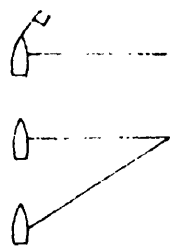
乙法



丙法



丁法



基準目標ヲ旗艦ノ砲戰目標トス 但シ基準目標ハ爾後砲火指向法ノ變換ニ際シテハ特ニ必要
トスル場合ノ外之ヲ指令セザルヲ例トス

(記事)

(1) 砲火指向法ハ同航戰タルト反航戰タルトヲ問ハズ同一トス

(2) 各艦ハ射線ノ順序ニ基準目標ヨリ順次ニ隣接艦又ハ隣接戦隊先頭艦(梯陣列又ハ横陣列ノ場合)ニ配分スルモノトス

情況ニ依リニ番艦以下ノ目標ヲ特令スルコトアリ

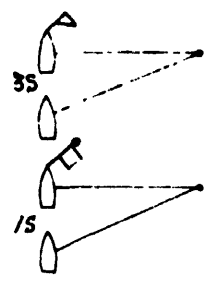
(3) 戦隊ノ隻數不足スル場合ハ戦隊ノ後方射線ヲ缺クモノトシ前號ニ準ズ

(ロ) 複隊ノ砲火指向法

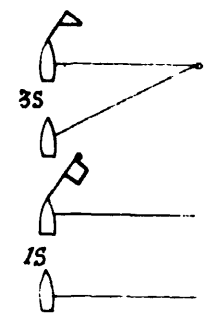
(一) 第一、第三戦隊連合

基準目標ヲ聯合艦隊旗艦ノ砲戰目標トス但シ基準目標ハ爾後砲火指向法ノ變換ニ際シテハ
 特ニ必要トスル場合ノ外之ヲ指令セザルヲ例トス

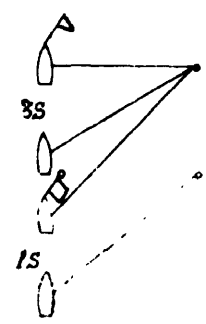
第一法



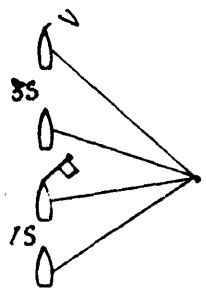
第二法



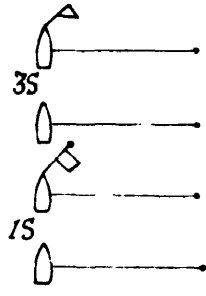
第三法



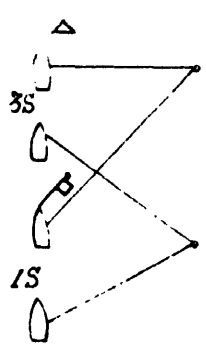
第四法



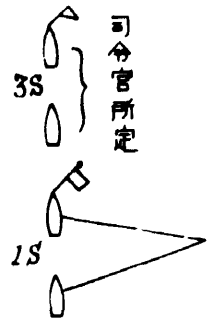
第五法



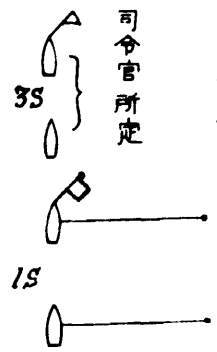
第六法



第七法



第八法



(記事)

(1) 第一、第三戰隊ノ序位ヲ異ニスル場合ニ在リテモ目標配分ノ要領ハ右圖例ニ依ル

(2) 射線ノ配分ハ單隊ノ場合ニ準ズ

但シ情況ニ依リ戰隊旗艦ノ目標ヲ特令スルコトアリ此ノ場合當該戰隊ハ旗艦ノ目標ヲ基準トシテ砲火ヲ配分スルモノトス

(二) 第二戰隊

第一戰隊又ハ第一、第三戰隊ト同一序列ニ在リテ砲戰ヲ實施スル場合第二戰隊ノ砲火ハ特令スル場合ノ外第一戰隊若ハ第一、第三戰隊ノ目標以外ノモノニ指向スルモノトシ砲火指向法ハ當該艦隊司令長官之ヲ令スルモノトス

(三) 第二、第三戰隊連合シテ砲戰ヲ實施スル場合ノ砲火ノ指向ハ第一艦隊司令長官ノ所信ニ一任ス

(ハ) 砲戰開始後相當時間經過シ對勢變化スルニ至ラバ機宜各艦隊司令長官(戰隊司令官)ハ砲火指向法ヲ變換スルコトヲ得

(ニ) 緒戰則其ノ他乙晝戰ヲ實施スル場合ニハ敵ノ先頭(反航戰ニ在リテハ情況ニ依リ後尾)ニ

對シ大集中射撃ヲ行フコトアリ

(ホ) 敵主力ノ射程内ニ入ルモ緒戦期ニ在リテハ爲シ得ル限り敵ノ先頭(後尾)ニ對シ集中射撃ヲ行フ

(ヘ) 酣戦期ニ於テハ爲シ得ル限り敵主力全線ニ對シ砲火ヲ配分ス

五、戦艦戦隊逐次砲戦加入スル場合ニハ既ニ砲戦ヲ開始セル戦隊ハ速ニ自隊ノ砲戦目標竝ニ砲火指向法ヲ友隊ニ通報スルモノトス

此ノ場合我が砲火ヲ指向セザル敵主力ニ對シテハ情況許ス限り個撃煙幕ヲ以テ之ヲ遮蔽ス

六、敵集團シテ退却スル場合ニハ戦艦戦隊ハ概ネ緒戦期ノ砲戦ニ準ジ敵ノ端末艦若ハ旗艦ニ砲火ヲ集中ス

敵退却ニ際シ煙幕ヲ展張シテ我が砲撃ヲ妨害スル場合最近ノ艦ハ煙幕展張艦(機)ヲ砲撃撃破ス

敵混亂敗走スル場合ニハ各艦ハ至近ノ敵ヲ急迫猛撃シ互ニ自艦ノ攻撃目標ヲ通報ス

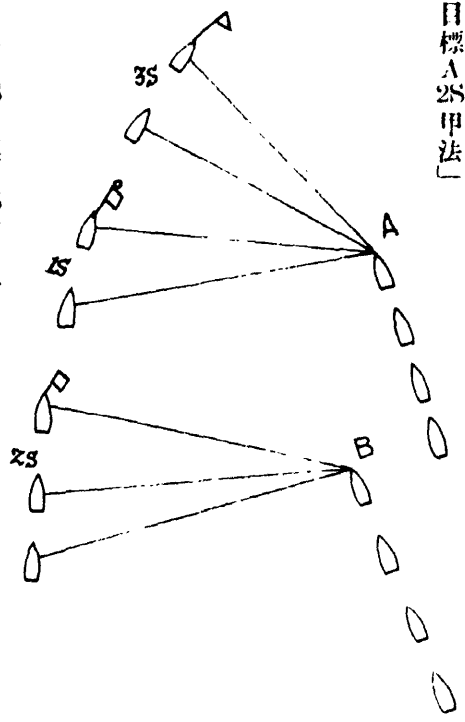
七、薄暮戦ニ於テ視界大ナル場合ニ於ケル戦艦戦隊ノ砲戦ハ緒戦期ノ砲戦ニ準ズ
視界漸次縮少シ敵主力ニ對スル砲撃困難トナラバ速ニ目標ヲ敵巡洋艦ニ變換ス

八、複式砲戦、夜間又ハ視界狭少ナル場合ニ於ケル戦艦戦隊ノ砲戦ハ各艦隊司令長官(戦隊司令官)ノ所信ニ一任ス

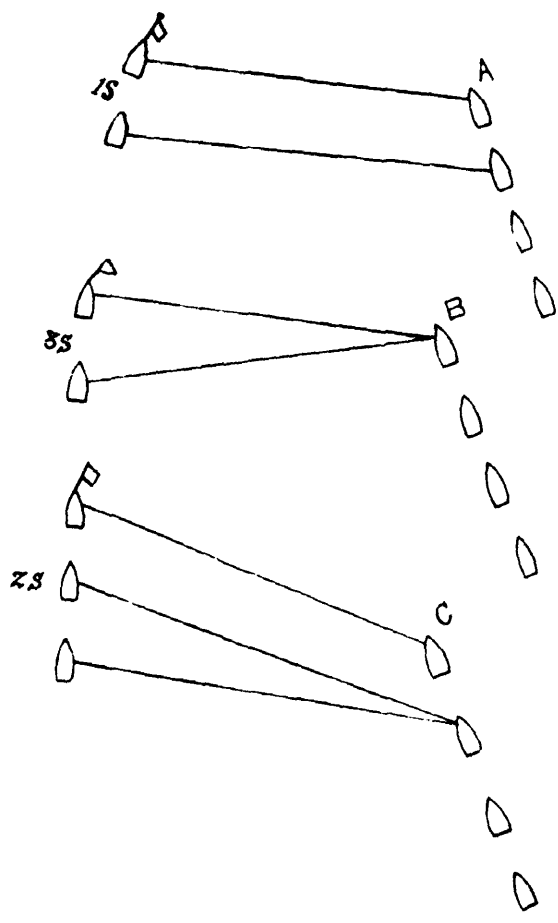
九、大口徑砲ヲ以テスル對空砲戦ハ各艦長ノ所信ニ一任ス

(例) 砲火指向法ノ例

「砲火指向第四法基準目標A 2S 甲法」

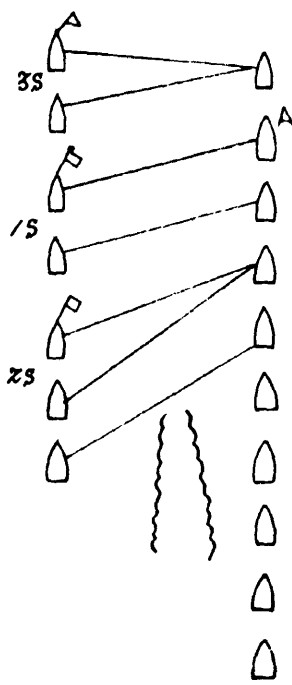
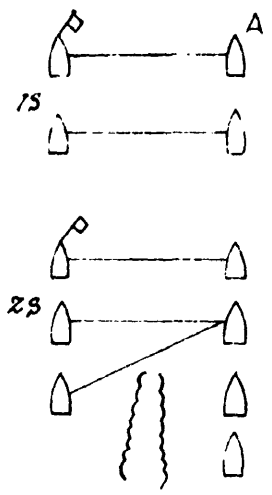


「砲火指向第二法基準目標A 3S 目標B 2S 丁法」



「砲火指向第一法基準目標A 2S丁法」

「砲火指向第二法基準目標A 2S丙法」



第十一章 魚雷戰

一、遠距離魚雷戰ニ於テハ敵ノ被害範圍ヲ大ナラシムル爲魚雷ノ調定深度ヲ四乃至五米トスルヲ

例トス

二、晝間水上戰闘ニ於テ突撃用意ノ令アラバ水雷戰隊ハ左ノ突撃準備位置ニ占位スルモノトス

先頭隊 Sd	突撃準備位置範圍
敵IS列前方ノ 約正横前四五度二五籽 乃至 約正横 二〇籽	
敵IS列後方隊ノ 約正横前一〇度二〇籽 乃至 約正横後一五度二〇籽	

三、晝間水上戰闘ニ於ケル多數水雷戰隊ノ突撃ハ齊撃又ハ時隔小ナル順撃トシ主力相互ノ距離概

ネ三〇 軒ニ於テ下令スルヲ例トス

第十二章 機雷戰

一、各部隊指揮官ハ好機ヲ捕捉シテ機雷戰ヲ實施シ速ニ之ヲ所要ノ向ニ報告通報ス

二、機雷戰實施ニ際シ指令スベキ事項概ネ左ノ如シ

機雷戰ノ目的、機雷戰兵力

敷設諸元

會敵ノ際ニ於ケル處置

實行上大ナル齟齬ヲ生ジタル場合ノ處置

行動豫定

牽制陽動、欺瞞其ノ他ニ關スル事項

掩護ニ關スル事項

通信ニ關スル事項

三、敷設地點ハ概ネ左ノ標準ニ依リ之ヲ決定スルモノトス

兵器使用ニ適スル海象ヲ有スルコト

敵ニ實撃ヲ與ヘ得ル地點

敵ニ大ナル脅威ヲ與ヘ得ル地點

隱密救設可能ナル地點

四、機雷戰ハ努メテ我ガ企圖ヲ祕匿シ且敵ノ意表ニ出デ又ハ敵ノ油斷ニ乗ズル如ク好機ヲ捉ヘテ
迅速ニ之ヲ實施スルモノトス

第十三章 運動

- 一、第一戰隊戰鬪速力左ノ通定ム
- | | |
|--------|------|
| 第一戰鬪速力 | 十八節 |
| 第二戰鬪速力 | 二十節 |
| 第三戰鬪速力 | 二十二節 |
| 第四戰鬪速力 | 二十四節 |
| 第五戰鬪速力 | 二十六節 |
- 二、被害等ノ爲第一戰隊ノ一艦急速速力低下スル場合ニハ戰況許ス限り最高速力ノ差ガ約五節ニ達スル迄極力編隊維持ニ努ムルモノトス
- 三、爾餘ノ諸隊ニ就テハ各艦隊司令長官之ヲ定ム

第十四章 煙幕

- 一、煙幕ノ種別左ノ通定ム

二、煙幕ノ用法左ノ通定ム

煙幕種類別	記	事
第一種煙幕	煤煙幕	煤煙幕ノミヲ展張ス
第二種煙幕	藥煤煙幕	煤煙幕及濃藥煙幕ヲ同時ニ展張ス
第三種煙幕	濃藥煙幕	八疋(發煙罐二)ニテ濃ク展張ス
第四種煙幕	淡藥煙幕	四疋(發煙罐一)ニテ淡ク展張ス
第五種煙幕	煙彈煙幕	

記 藥煙幕ハ平穩ニシテ濕度七五%ノ場合原速力ニテ展張スル濃度ヲ標準トシ風向、風速、濕度、天候等ニ依リ適宜噴射本數及空氣壓力ヲ調節ス

種別	目	的	展張兵力
個擊煙幕	敵主力ノ一部又ハ敵ノ某部隊ヲ陰蔽シテ其ノ攻撃力發揮ヲ困難ナラシメ其ノ殘部又ハ他部隊ニ對シ我が攻撃力ヲ集中ス		指示直衝隊、水雷戰隊(驅逐艦)、巡洋艦戰隊(巡洋艦)又ハ指示航空戰隊
進擊煙幕	自隊(艦)ヲ陰蔽シツツ進擊敵ニ迫近ス		
遮蔽煙幕	自隊(艦)ヲ陰蔽シツツ我が行動ヲ秘匿シ又ハ敵ヨリ韜晦ス		
背景煙幕	我(敵)背景ニ煙幕ヲ展張シテ敵(我)方ヨリスル視認觀測等ヲ妨害(容易ニ)ス		飛行機

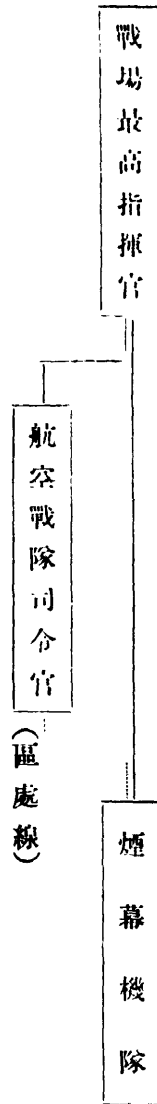
記 一、遮蔽煙幕ハ敵機ニ對シ航空母艦、船團等ヲ陰蔽スル爲使用スルコトアリ
二、我が行動海域又ハ泊地ニ適宜ノ煙霧ヲ作り以テ敵航空機ノ視認、觸接又ハ照準ヲ困難ナラシムルコトアリ

三、飛行機ニ依ル煙幕ノ展張ニ關シテハ左ノ外各艦隊司令長官所定ニ依ル

(イ) 煙幕機隊ノ編制

煙幕機隊	飛行機隊	機種	機數
	第一煙幕機隊	艦攻	三
第二煙幕機隊	三		

(ロ) 指揮系統



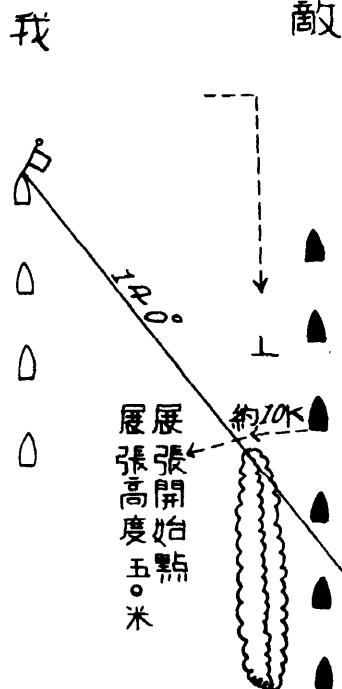
(ハ) 煙幕機ノ準備發進空中待機竝ニ展張開始

準備	發進	空中待機	展張開始
艦隊司令長官ハ煙幕機ヲ使用スル場合豫メ煙幕機隊（又ハ機數）ヲ指令シ航空戦隊司令官ハ右ニ基キ煙幕機ヲ準備ス	艦隊司令長官ハ煙幕機隊ノ主隊（戰艦部隊）上空著時刻ヲ特令スルヲ例トス 特令ナケレバ航空戦隊司令官ハ主隊（戰艦部隊）ノ豫想砲戦開始時刻二十分前迄ニ煙幕機隊ヲ主隊（戰艦部隊）上空ニ派遣スルモノトス	煙幕機隊ノ空中待機位置ハ主隊（戰艦部隊）ノ非戦側防空機銃威力圈内（概ネ二〇〇〇米）高度三〇〇〇米以下トス	煙幕展張メノ令ニ依ル

(ニ) 展張法

第一法
(展開開始方位)
(方位ノ度)

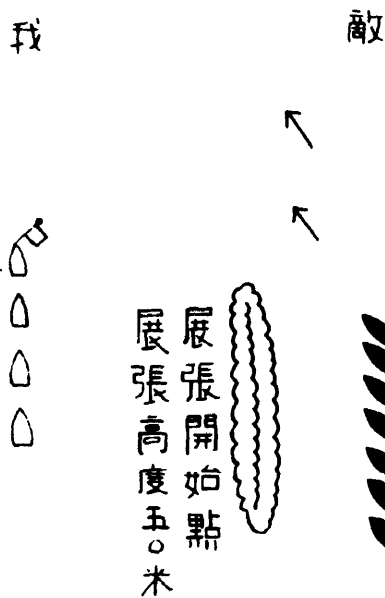
左圖ノ通敵主力ノ一部ヲ個撃スル爲ニ展張ス



(例)
第一法
展開開始點
方位一四〇度

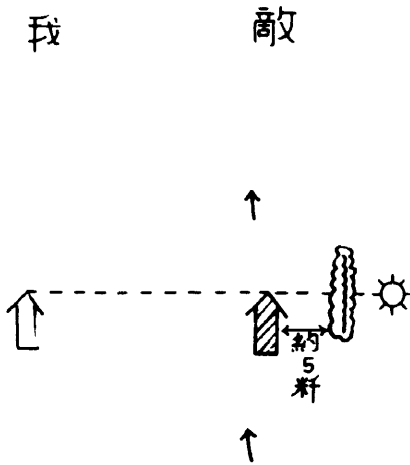
第二法

左圖ノ通敵主力ノ全部ヲ遮蔽シ敵補助部隊ヲ個撃スル爲ニ展張ス



(例)
第二法

第
四
法

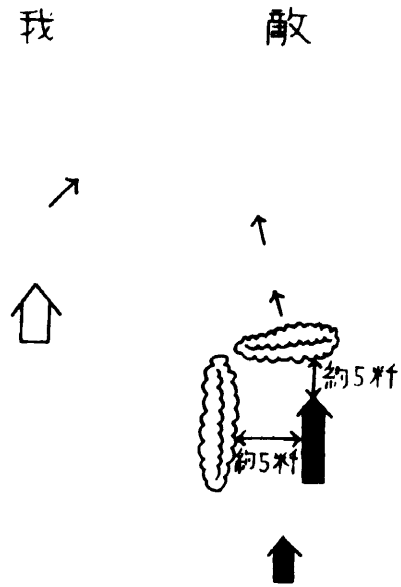


左圖ノ通敵主力部隊ノ背景ヲ遮蔽シ之ガ攻撃ヲ容易ナラシムル爲ニ展張ス

(例)

第
四
法

第
三
法



左圖ノ通敵主力ノ全部ヲ遮蔽シ敵補助部隊ヲ個撃スル爲ニ展張ス

(例)

第
三
法

信文	煙幕機隊	行動及處置
煙幕展張用意	展張用意ヲナシツツ空中待機位置ヨリ彼我主力中間敵主力ノ前程適宜ノ位置ニ進出ス	
煙幕展張始メ	(一) 第一法 待機ヨリ速ニ行動ヲ起シ指示方位ニ至ラバ煙幕展張ヲ開始ス (二) 第二法 指揮官所定ニ依リ煙幕展張ヲ開始ス	
煙幕展張待テ	展張ヨリ適宜編隊行動シツツ指令ヲ待ツ	
煙幕ヲ止メ	適宜戰ヲムリ母艦ニ歸投ス	

第十五章 電 測

電測トハ電波、不可視光線等ヲ利用シ探信、測的等ヲ行フヲ謂ヒ、電測兵器トハ電測ニ使用スル電波探信儀、電波探知機、電視装置、暗視装置等ノ兵器ヲ謂フ

第一節 通 則

- 一、電波、光線等ヲ輻射シ反射波ニ依リ探信、測的等ヲ行フ兵器ハ我が所在ヲ暴露スル虞アルヲ以テ彼我兵器ノ性能ヲ考慮シ敵情、天象、地象ニ應ジ適當ニ之ヲ使用スルモノトス
- 二、敵ノ輻射スル電波、不可視光線等ヲ利用シ敵ノ所在ヲ測定シ若ハ敵ガ此等ノ兵器ヲ使用中ナ

ルヲ察知スル兵器ノ何モ警戒ヲ要スル情況ニ在リテハ常ニ之ガ全幅活用ヲ圖ルモノトス

三、電測ニ際シテハ敵ノ行フコトアルベキ欺瞞ノ看破ニ努メ且適切ナル情況判斷ニ依リ大局ヲ誤ラザルヲ要ス

四、電測ニ對スル回避、欺瞞、妨害等ハ彼我兵器ノ性能ヲ考慮シ効力發揮ヲ期待シ得ルモノハ積極的ニ之ヲ實施スルモノトス

牽制陽動ヲ行フ場合欺瞞妨害等ヲ併用スルトキハ其ノ効果大ナルコト多シ

第二節 電波探信及測的

一、艦船裝備電波探信儀及電波探知機ニ依ル探信及測的ハ敵情、天候、視界等ニ應ジ左ノ標準ニ依リ之ヲ行フモノトス

敵	情	實	施	要	領
敵潜水艦ニ對スル警戒ヲ主ト		一、常時探知ヲ行フ			
敵大型機ノ哨戒圏内ニ在ル場		二、積極的ニ攻撃ヲ企圖スル場合ハ視界不良ノトキノミ探信ヲ行フ			
敵水上艦艇視界外近距離ニ在ル虞アル場合		一、常時探知ヲ行フ			
		二、視界不良ノ場合ノミ探信ヲ行フ			
		三、全力ヲ擧ゲテ敵探信電波ノ捕捉測定ニ努ム			
		四、場合探信ヲ行フ			

- 一、敵大型機ノ攻撃圏内
- 二、敵空母附近ニ在ル處

敵水上艦艇ヲ發見セル場合

- 一、敵大型機ノ觸接ヲ
- 二、敵艦上機ニ發見セ
- 三、敵空母ヲ攻撃開始

對空戰闘中

知ヲ行フ

發射ヲ行フ艦ノ電探ハ測的ニ主用ス

射擊發射ヲ行ハザル艦ノ電探ハ對空對艦船探信ニ主用ス

三、探知ヲ行フ

一、電探ノ全力ヲ擧ゲテ對空探信ヲ行フ

二、探知ヲ行フ

對空射擊用電探ヲ對空測的ニ使用スル外前項ニ同ジ

二、電波測的ハ各艦

電波探信ハ信號通達距離以内ニ集團行動スル部隊ハ概ネ統一實施

スルヲ例トス

三、陸上裝備電波探信

常時探信ヲ行フヲ例トシ敵來襲ノ算大ナル方向及時刻ニ重點ヲ置クモノトス

四、航空機裝備電測兵器ハ其ノ性能ニ應ジ積極的ニ使用スルモノトス

五、電波探信儀及電波探知機ヲ以テスル探信測的ハ光學兵器ヲ以テスル見張測的ト密接ナル連繫

ヲ保チ遠距離、暗空、雲上、太陽ノ方向等見張困難ニシテ虛隙ヲ生ジ易キ方向ニ對シテ

ハ探信測的ヲ主トシ、遠距離目標竝ニ同時ニ異方向ヨリ多數殺到スル飛行機等ニ對シテ

ハ見張測的ヲ主トス

領ニ依ル

シムルヲ目途トシテ欺瞞、妨信ヲ行フ

軍中ノ方向ニ之ヲ牽制スルヲ目途トシ牽制陽動ト併用又ハ單獨ニ欺瞞ヲ
ルヲ例トス

戦闘概報、同速報

◆^終後速ニ電報又ハ信號ヲ以テ報告スルヲ例トシ特ニ簡潔ヲ尙ビ彼
經過ハ其ノ要點ノミヲ報告スルモノトス

屬上級指揮官ノ外關係ノ向ニ之ヲ通報シ當該上級指揮官ヨリノ
ントス

上級指揮官ノ戦闘指導上即刻必要ト認ムル事項ハ戦闘中隨時
子ス

(終)